

令和5年度

教育委員会  
教育行政点検・評価  
報告書

(対象：令和4年度主要施策)

秦野市教育委員会

# 目 次

第1章 点検・評価の概要	1
1 点検・評価の目的	1
2 点検・評価の対象	1
(1) 教育委員会の活動状況	1
(2) 主要施策等	1
3 点検・評価の進め方	2
(1) 教育行政点検・評価の実施に関する主な経過	2
(2) 教育施策点検・評価会議	2
(3) 教育に関する学識経験者（総合評価者）	3
(4) 教育委員会	3
第2章 教育委員会の活動状況	4
1 教育委員会会議の活動状況	4
(1) 教育委員会会議の開催状況	4
(2) 教育委員会会議の審議等の状況	5
ア 教育長報告	5
イ 議案	8
ウ 協議事項	9
エ 指名	10
オ その他	10
2 教育委員会会議以外の活動状況	11
3 教育委員会の活動状況についての点検・評価	13
第3章 令和4年度主要施策	17
1 「令和4年度主要施策」の点検・評価	17
(1) 自己点検・評価	17
(2) 教育施策点検・評価会議の評価	17
(3) 教育長・教育委員の評価	17
(4) 令和4年度主要施策一覧	19
(5) 点検・評価シート	20
第4章 学識経験者の総合評価	72

# 第 1 章 点検・評価の概要

## 1 点検・評価の目的

教育行政点検・評価については、地方教育行政の組織及び運営に関する法律に基づき、教育委員会の活動及び具体的教育施策が「秦野市教育委員会基本方針」に沿って効果的に執行されているかを、教育委員会自らが事後に点検・評価を行い、活動及び施策の改善・充実を図るとともに、その結果に関する報告書を議会に提出及び公表し、市民に対する説明責任を果たすことを目的とします。

## 2 点検・評価の対象

令和4年度における「教育委員会の活動状況」並びに「教育振興基本計画に基づく主要施策」について点検・評価を実施しました。

### (1) 教育委員会の活動状況

- ア 教育委員会会議の開催状況
- イ 教育委員会会議の審議等の状況
- ウ 教育委員会会議以外の活動状況

### (2) 主要施策等（20施策）

	令和4年度基本方針	主要 施策
1	全ての子どもたちの可能性を引き出す新たな学びのスタイルにより、持続可能な社会を創り出す力を育みます。	4
2	地域とともにある学校づくりを推進します。	1
3	子どもが安全に安心して学ぶことができる学習環境と質の高い教育を支える教育環境を整備します。	7
4	市民の誰もが豊かな人生を送ることができるよう、生涯にわたり学び続けることができる環境づくりを推進します。	6
5	地域の歴史資源の保存・活用を通じ後世への継承に努めます。	2
	合 計	20

### 3 点検・評価の進め方

点検・評価に当たっては、「令和5年度教育委員会教育行政点検・評価の実施方針」及び「令和5年度教育委員会教育行政点検・評価のスケジュール」により実施しました。

また、令和4年度における教育委員会の活動状況については、第2章のとおり、教育委員会会議の開催状況、審議等の状況、教育委員会会議以外の活動状況を点検し、「教育委員会の役割」、「教育委員会会議の活性化」、「教育委員会会議の透明性」及び「教育に関する情報収集」など4つの項目について教育委員による評価を実施しました。

#### (1) 教育行政点検・評価の実施に関する主な経過

月 日	経 過
4月6日(木)~5月2日(火)	関係主管課等による自己点検・評価
5月15日(月)	教育委員会会議で活動内容等について協議
5月23日(火)	教育施策点検・評価委員へ評価の依頼
5月25日(木)~6月13日(火)	教育施策点検・評価委員による評価
6月22日(木)	教育施策点検・評価会議
7月14日(金)	教育委員会会議で点検・評価報告書について協議
7月14日(金)	点検・評価に関する学習会開催
8月18日(金)	教育委員会会議で点検・評価報告書について議決

#### (2) 教育施策点検・評価会議

令和4年度主要施策については、事務局各担当課等の自己評価と併せて、次の表のとおり、PTA役員や元学校長の学校教育関係者、生涯学習関係者で組織する「教育施策点検・評価会議」から客観的な評価を受けました。

区 分	氏 名	職 名 等
教育関係者	村田史樹	P T A 連 絡 協 議 会
	神山友輔	
	米山和久	
学校教育関係者	小宮郁美	幼 稚 園 長 会 長
	吉田正也	小 学 校 長 会 長
	加藤淳也	中 学 校 長 会 長
生涯学習関係者	高橋弘子	社 会 教 育 委 員
	熊澤広明	
	竹之内禎	

(3) 教育に関する学識経験者（総合評価者）

氏 名	所 属 ・ 役 職
大 島 宏 (学校教育関係)	東海大学 ティーチングクオリフィケーションセンター 教授
逢 坂 伸 一 (生涯学習関係)	東海大学名誉教授

(4) 教育委員会

上の表の学校教育関係及び生涯学習関係に関する学識経験者による総合的な評価、意見等を踏まえ、教育長及び教育委員による点検・評価を実施しました。

氏 名	職 名
佐 藤 直 樹	教育長
小 泉 裕 子	教育長職務代理者
飯 田 文 宏	委員
片 山 恵 一	委員
牛 田 洋 史	委員

## 第 2 章 教育委員会の活動状況

### I 教育委員会会議の活動状況

#### (1) 教育委員会会議の開催状況

教育委員会では、原則として、毎月第3金曜日の午後1時30分から定例教育委員会会議を開催しました。

#### 【令和4年度定例会及び臨時会】

開催日	会 議	付議事件数
令和4年 4月15日(金)	4月定例教育委員会 欠席委員 なし 傍聴者 1名	○教育長報告 14件 ○議 案 1件 ○協議事項 1件
5月18日(水)	5月定例教育委員会 欠席委員 なし 傍聴者 なし	○教育長報告 12件 ○議 案 2件 ○協議事項 1件
6月17日(金)	6月定例教育委員会 欠席委員 なし 傍聴者 1名	○教育長報告 4件 ○議 案 3件 ○協議事項 2件 ○その他 1件
7月15日(金)	7月定例教育委員会 欠席委員 なし 傍聴者 1名	○教育長報告 14件 ○議 案 3件 ○協議事項 3件 ○その他 1件
8月19日(金)	8月定例教育委員会 欠席委員 なし 傍聴者 11名	○教育長報告 5件 ○議 案 5件 ○協議事項 6件 ○その他 1件
9月16日(金)	9月定例教育委員会 欠席委員 なし 傍聴者 1名	○教育長報告 8件 ○議 案 1件 ○協議事項 3件 ○その他 1件
10月14日(金)	10月定例教育委員会 欠席委員 なし 傍聴者 1名	○教育長報告 14件 ○議 案 2件 ○協議事項 2件 ○その他 1件
11月11日(金)	11月定例教育委員会 欠席委員 なし 傍聴者 なし	○教育長報告 7件 ○議 案 3件 ○協議事項 2件 ○その他 1件
12月16日(金)	12月定例教育委員会 欠席委員 なし 傍聴者 なし	○教育長報告 8件 ○協議事項 1件

開催日	会議	付議事件数
令和5年 1月20日(金)	1月定例教育委員会 欠席委員 なし 傍聴者 なし	○教育長報告 9件 ○議案 2件 ○協議事項 4件 ○その他 2件
2月10日(金)	2月定例教育委員会 欠席委員 なし 傍聴者 なし	○教育長報告 9件 ○議案 6件 ○協議事項 1件 ○その他 1件
3月17日(金)	3月定例教育委員会 欠席委員 なし 傍聴者 なし	○教育長報告 14件 ○議案 2件 ○協議事項 4件 ○指名 1件
定例教育委員会 臨時教育委員会	12回 0回	○教育長報告 118件 ○議案 30件 ○協議事項 30件 ○指名 1件 ○その他 9件

## (2) 教育委員会会議の審議等の状況

令和4年度の教育委員会会議においては、議案30件の審議、協議事項30件の協議、指名1件を行うとともに、教育長の臨時代理13件を含む118の案件、その他9件について報告を受けて質疑を行いました。

### ア 教育長報告【118件】

番号	案件名	報告日
1	令和4年5月の開催行事等について	令和4年 4月15日
2	秦野市議会第1回定例会月会議報告について	
3	園児、児童、生徒及び学級数について	
4	教育支援協議会等の結果について	
5	令和3年度寺子屋方式による放課後学習支援事業報告について	
6	令和4年度いじめを考える児童生徒委員会について	
7	子ども等に関する事案について	
8	令和3年度ICTマイスター事業報告について	
9	第13回秦野市親子川柳大会の作品募集について	
10	図書館こどもの読書フェアについて	
1	令和4年6月の開催行事等について	5月18日
2	令和3年度幼稚園型一時預かり事業について	
3	令和3年度一般財団法人秦野市学校保全公社の経営状況について	
4	園児、児童、生徒及び学級数について	
5	小中学校教職員の在校等時間外集計結果(令和3年度)について	
6	令和4年度教科書展示会について	
7	コミュニティ・スクールについて	
8	令和4年度教育研究所研究部会について	
9	令和4年度はだの生涯学習講座について	

番号	案件名	報告日
10	令和4年度第1回ミュージアムさくら塾「秦野の古道・大山道」について	5月18日
1	令和4年7月の開催行事等について	6月17日
2	第1回いじめを考える児童生徒委員会について	
3	令和4年度ミュージアムさくら塾 第2回「秦野と大山詣り」について	
4	第36回夕暮記念こども短歌大会の作品募集について	
1	令和4年8月の開催行事等について	7月15日
2	秦野市議会第2回定例会議報告について	
3	第2回いじめを考える児童生徒委員会について	
4	子ども等に関する事案について	
5	令和3年度英語教育実施状況調査について	
6	第40回教育研究発表会について	
7	公民館における夏休み期間の学習室等開放について	
8	夏休み！はだの歴史探検～来て・見て・遊んで はだの歴史博物館&桜土手古墳公園～について	
9	企画展「夏。丹沢。山小屋に行ってみました。」について	
10	企画展「5つの目でみた表丹沢」について	
11	令和4年度ミュージアムさくら工房「親子まが玉作り教室」について	
12	～2023震生湖誕生100年記念写真展～「震生湖 あの日あの時」について	
13	秦野市立図書館電子図書館システム導入業務に係る受注事業者の選定について	
14	第35回夕暮祭短歌大会表彰式について	
1	令和4年9月の開催行事等について	8月19日
2	令和4年度公民館運営点検・評価について	
3	令和4年度第3回ミュージアムさくら塾「吾妻鏡を読むー源実朝暗殺事件を中心にー」	
4	ミュージアム青空レクチャー「再発見 震生湖」	
5	令和4年度「秦野たばこ資料展」について	
1	令和4年10月の開催行事等について	9月16日
2	通学路の安全確保に関する取組について	
3	第3回いじめを考える児童生徒委員会について	
4	夏季休業中の教育研修事業の実施結果について	
5	第3回新規採用教職員研修会の実施結果について	
6	企画展『鎌倉時代の秦野』について	
7	令和4年度市民大学について	
8	花音朗読コンサート2022について	
1	令和4年11月の開催行事等について	10月14日
2	秦野市議会第3回定例会議報告について	
3	ほりかわ幼稚園のこども園化に係る意見交換会の結果について	
4	中学校給食に関するアンケート結果について	
5	秦野市部活動スタートアップ事業2025プランについて	
6	子ども等に関する事案について	
7	デジタルフリースクールに係る実証事業について	
8	スマートスクール研究実践事業について	



番号	案件名	報告日
9	指定文化財特別公開について	10月14日
10	企画展「健康万歳！～秦野の医療・衛生のあゆみ～」について	
11	令和4年度 第4回ミュージアムさくら塾「富士山宝永噴火の被害と復興—秦野市域に残された史料を中心に—」について	
12	楽しい絵本とおはなしの講座について	
13	古典の日・文学講演会「中世和歌の世界～百人一首を中心に～」について	
14	秋の読書週間について	
1	令和4年12月の開催行事等について	11月11日
2	令和3年度児童・生徒の問題行動・不登校等調査結果について	
3	新たな学びプロジェクト研究会の結果について	
4	第13回秦野市親子川柳大会の入賞作品について	
5	ミュージアム青空レクチャー「本町四ツ角の歴史的建造物」について	
6	第48回親と子の音楽会について	
7	第36回夕暮記念こども短歌大会の入賞作品について	
1	令和5年1月の開催行事等について	12月16日
2	募集献立「自慢の献立コンテスト」の選考結果について	
3	第4回いじめを考える児童生徒委員会の結果について	
4	義務教育学校研修視察の結果について	
5	「ヤングケアラーに関するアンケート調査」について	
6	令和4年度第2回コミュニティ・スクール連絡協議会の結果について	
7	令和4年度第5回ミュージアムさくら塾「秦野の正月行事」について	
1	令和5年2月の開催行事等について	令和5年 1月20日
2	秦野市議会第4回定例会議報告について	
3	令和4年度「学校生活全般における体罰の実態把握に関する調査」の実施について	
4	子ども等に関する事案について	
5	大人のためのおはなし会について	
1	令和5年3月の開催行事等について	2月10日
2	令和4年度「学校生活全般における体罰の実態把握に関する調査結果」について	
3	全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果について	
4	地域部活動フォーラム in HADANOの結果について	
5	学びのステップアップ講座について	
6	第3回ミュージアム青空レクチャー「渋沢駅周辺の風景を訪ねて」	
7	第6回ミュージアムさくら塾「秦野市の地形と地震の痕跡—秦野市内の遺跡から見つかった地震跡—」	
8	令和4年度子ども読書活動推進事業講演会について	
9	令和4年度児童文学講座について	
1	令和5年4月の開催行事等について	3月17日
2	学校ネットワークシステムの更新について	
3	学びの基盤プロジェクトの結果について	

番号	案件名	報告日
4	ドリームワイドプロジェクト in HADANO 第2弾について	3月17日
5	令和5年度学校教育関係事業について	
6	教育支援教室いずみ事業報告について	
7	訪問型個別支援教室つばさ事業報告について	
8	企画展「秦野の年中行事」について	
9	企画展「丹沢山麓の縄文集落－秦野の縄文土器」について	
10	前田夕暮生誕140周年記念・第36回夕暮祭短歌大会（作品募集）について	
11	秦野市ブックスタート事業について	
12	学校開放予約システム等の導入について	

報告番号	臨時代理の報告について	報告日
R4-4	秦野市教育委員会事務局職員の任免について	令和4年 4月15日
5	秦野市教育委員会職員の任免について	
6	学校教育課長が専決事項の一部を学校教育課学校給食担当課長に委譲することについて	
7	市立小学校教職員の人事上の措置について	5月18日
8	秦野市立図書館電子図書館システム導入業務に係る企画提案型事業審査会委員の委嘱及び任命について	
9	秦野市立図書館電子図書館システム導入業務に係る企画提案型事業審査会への諮問について	12月16日
10	令和4年度教育功労者等表彰・教育長表彰の被表彰者の追加について	
R5-1	令和4年度教育功労者等表彰・教育長表彰の被表彰者の追加について	令和5年 1月20日
2	令和5年度管理職候補者の推薦について	
3	市立学校長の人事上の措置について	
4	市立中学校教職員の人事上の措置について	3月17日
5	秦野市小中学校管理職の退職の内申について	
6	秦野市小中学校管理職の任免の内申について	

## イ 議 案【30件】

議案番号	案件名	審議日
R4-7	秦野市立図書館電子図書館システム導入業務に係る企画提案型事業審査会規則を制定することについて	令和4年 4月15日
8	令和5年度に秦野市立小学校及び中学校で使用する教科用図書の採択方針について	5月18日
9	秦野市社会教育委員の委嘱について	
10	秦野市文化財保護委員会委員の委嘱について	6月17日
11	秦野市指定重要文化財の指定に関する諮問について	
12	秦野市図書館協議会委員の任命について	
13	—	—

議案番号	案件名	審議日
14	令和5年度に使用する小学校の教科用図書の採択について	7月15日
15	令和5年度に使用する中学校の教科用図書の採択について	
16	令和5年度に使用する学校教育法附則第9条による教科用図書の採択について	
17	令和4年度教育委員会教育行政点検・評価について	8月19日
18	令和3年度秦野市一般会計（教育費）決算について	
19	令和4年度秦野市一般会計（教育費）予算の補正について	
20	秦野市指定重要文化財の指定について	
21	秦野市図書館協議会委員の任命について	9月16日
22	秦野市立図書館条例施行規則の一部を改正することについて	
23	令和5年度秦野市立小中学校県費負担教職員人事異動方針について	10月14日
24	令和5年度秦野市立幼稚園教諭人事異動方針について	
25	令和4年度秦野市教育委員会教育功労者等表彰・教育長表彰について	11月11日
26	秦野市教育・保育施設運営法人選定委員会規則について	
27	令和4年度秦野市一般会計（教育費）予算の補正（第5号）について	
R5-1	はだの歴史博物館条例の一部改正について	令和5年1月20日
2	秦野市文化財保護委員会委員の委嘱について	
3	令和5年度秦野市一般会計（教育費）予算について	2月10日
4	令和4年度秦野市一般会計（教育費）予算の補正について	
5	協議書の一部を改正する協議について	
6	秦野市学校運営協議会の設置及び委員の委嘱又は任命について	
7	秦野市教育研究所設置条例の一部を改正することについて	
8	令和4年度教育長表彰の被表彰者の追加について	
9	令和5年度秦野市教育委員会基本方針及び主要施策について	3月17日
10	秦野市学校給食の実施に関する条例施行規則の一部改正について	

#### ウ 協議事項【30件】

番号	案件名	協議日
1	令和4年度教育委員会教育行政点検・評価について	令和4年4月15日
2	令和4年度教育委員会教育行政点検・評価について	5月18日
3	学校施設の一体的整備の検討について	6月17日
4	通学路の安全確保に関する取組について	
5	令和4年度教育委員会教育行政点検・評価について	7月15日
6	秦野市立ほりかわ幼稚園の認定こども園化に係る基本方針について	
7	次期学校ネットワークシステム更新方針（案）について	
8	令和5年度小規模特認校（上小学校）募集について	8月19日

番号	案件名	協議日
9	令和5年度小学校給食調理委託について	8月19日
10	秦野市立図書館条例施行規則の一部を改正することについて	
11	要望書について	
12	ほりかわ幼稚園のこども園化について	
13	中学校完全給食実施状況調査について	
14	ほりかわ幼稚園のこども園化について	9月16日
15	令和5年度秦野市立幼稚園教諭人事異動方針(案)について	
16	令和5年度秦野市立小中学校県費負担教職員人事異動方針(案)について	
17	秦野市教育・保育施設運営法人選定委員会規則について	10月14日
18	令和4年度全国学力・学習状況調査結果の分析について	
19	上小学校長による上幼稚園長の兼職について	11月11日
20	募集献立「自慢の献立コンテスト」について	
21	令和5年度秦野市一般会計(教育費)予算編成について	12月16日
22	令和5年度秦野市一般会計(教育費)予算(案)について	令和5年 1月20日
23	教育研究所の機能強化について	
24	協議書について	
25	秦野市立学校運営協議会の設置の申出及び委員の推薦について	
26	秦野市学校給食の実施に関する条例施行規則の一部改正について	2月10日
27	学校施設の一体的整備について	3月17日
28	秦野市立学校教育施設の開放に関する規則を改正することについて	
29	秦野市個人情報の保護に関する法律施行細則を制定することについて	
30	秦野市教育委員会事務決裁規程の一部を改正することについて	

#### エ 指名【1件】

番号	案件名	報告日
1	教育長職務代理者の指名について	令和5年 3月17日

#### オ その他【9件】

番号	案件名	協議・報告日
1	放課後児童ホーム対象学年拡大に向けた検討について	令和4年 6月17日
2	令和4年度園・校における防災訓練の結果について	7月15日
3	表丹沢野外活動センター指定管理者の指定等について	8月19日
4	要望書について	9月16日
5	令和5年度予算編成について	10月14日
6	電子図書館の運用について	11月11日

番号	案件名	協議・報告日
7	令和5年度教育委員会会議等日程(案)について	令和5年 1月20日
8	申入書について	
9	要望書等について	2月10日

## 2 教育委員会会議以外の活動状況

令和4年度においては、定例会のほか、総合教育会議、学校等訪問、学習会、研修会、各種事業等の活動に42回(延べ67人)参加及び出席しました。

No.	月 日	活動等の名称	活 動 内 容	区 分
1	令和4年 4月 5日(火)	教育支援助手・特別支援 学級介助員研修会 【教育指導課】	挨拶	会 議
2	4月13日(水)	学びのステップアップ講座 (委嘱式) 【教育指導課】	挨拶及び委嘱状の交付	式 典
3	4月26日(火)	令和4年度ICTマイスタ ー委嘱式 【教育研究所】	挨拶及び委嘱状の交付	式 典
4	4月28日(木)	教育研究所研究員委嘱式 【教育研究所】	挨拶及び委嘱状の交付	式 典
5	5月 8日(日)	第1回いじめを考える児童 生徒委員会 【教育指導課】	市内小・中学校代表児童・生 徒、教員が集い、いじめ根絶に向 けて意見交換を行う	会 議
6	5月10日(火)	新採用・転任採用教職員研 修会 【教育研究所】	講話等	会 議
7	5月27日(金)	文部科学省地方教育アドバ イザー視察 【教育指導課】	地方教育アドバイザーの視察 同行	学校等 訪 問
8	6月29日(水)	第1回社会教育委員会議 【生涯学習課】	挨拶	会 議
9	7月15日(金)	学習会 【教育総務課】	教育行政点検・評価	学習会
10	7月23日(土)	令和4年度 第35回夕暮 祭短歌大会 【図書館】	表彰式等	式 典
11	7月26日(火)	第1回総合教育会議 【教育総務課】	首長と教育委員会が教育政策 の方向性を共有するため、本市 教育行政に関する協議、調整を 行う。	会 議
12	8月 1日(月)	教職経験8年次研修 【教育研究所】	挨拶	会 議
13	8月 4日(木)	新採用教員研修会 【教育研究所】	講話等	会 議

No.	月 日	活動等の名称	活 動 内 容	区 分
14	8月 5日(金)	新採用教員研修会 【教育研究所】	挨拶	会 議
15	8月22日(月)	第40回教育研究発表会 【教育研究所】	教育研究発表及び子どもを育む中学校区懇談会の取組み発表	事 業 参 加
16	9月13日(火)	第2回スマートスクール 連絡協議会 【教育研究所】	挨拶及び協議	会 議
17	9月22日(木)	学びのステップアップ講座 研修会 【教育指導課】	挨拶	会 議
18	10月22日(土)	北公民館まつり開会式 【生涯学習課】	挨拶	式 典
19	10月25日(火)	ふるさとはだのデジタル化 研究部会委嘱式 【教育研究所】	挨拶及び委嘱状の交付	式 典
20	10月26日(水)	第2回社会教育委員会議 【生涯学習課】	挨拶	会 議
21	10月28日(金)	東小中学校運営協議会 【教育指導課】	挨拶及び事業説明	会 議
22	11月 6日(日)	第4回いじめを考える児童 生徒委員会 【教育指導課】	市内小・中学校代表児童・生徒、教員が集い、いじめ根絶に向けて意見交換を行う。	会 議
23	11月12日(土)	第13回秦野市親子川柳 大会表彰式 【生涯学習課】	挨拶及び表彰状贈呈	式 典
24	11月18日(金)	第2回総合教育会議 【教育総務課】	首長と教育委員会が教育政策の方向性を共有するため、本市教育行政に関する協議、調整を行う。	会 議
25	11月24日(木)	西中学校運営協議会 【教育指導課】	挨拶及び事業説明	会 議
26	11月26日(土)	第36回夕暮記念こども短歌 大会表彰式 【図書館】	表彰式	式 典
27	12月 3日(土)	渋沢公民館まつり開会式 【生涯学習課】	挨拶	式 典
28	12月 8日(木)	西小学校運営協議会 【教育指導課】	挨拶及び事業説明	会 議
29	12月 9日(金)	西小学校運営協議会 【教育指導課】	挨拶及び事業説明	会 議
30	12月22日(木)	末広小学校運営協議会 【教育指導課】	挨拶及び事業説明	会 議
31	令和5年 1月 5日(木)	令和5年 新年賀詞交換会 【秘書課】	式典	式 典
32	1月18日(水)	学びのステップアップ講座 研修会 【教育指導課】	挨拶	会 議

No.	月 日	活動等の名称	活 動 内 容	区 分
33	1月21日(土)	秦野市教育委員会教育功労者等表彰式【教育総務課】	本市の教育や学術等の振興に貢献した個人・団体を表彰する。	式 典
34		はだのっ子アワード表彰式【教育研究所】	「はだのっ子アワード事業」において優秀な成績を修めた児童・生徒を表彰する。	式 典
35	2月 4日(土)	本町公民館まつり開会式【生涯学習課】	挨拶	式 典
36	2月15日(水)	小中学校外国語指導助手派遣業務受注予定者の選定審査会【教育指導課】	A L T派遣業者選定のプロポーザルに委員として出席	会 議
37	2月17日(金)	第3回社会教育委員会議【生涯学習課】	挨拶	会 議
38	3月 3日(金)	学びのステップアップ講座修了式【教育指導課】	挨拶及び終了証の交付	式 典
39	3月 9日(木)	I C Tマイスターミーティング【教育研究所】	挨拶	会 議
40	3月10日(金)	北小中学校運営協議会【教育指導課】	挨拶及び委嘱状の交付	会 議
41	3月12日(日)	南が丘公民館まつり開会式【生涯学習課】	挨拶	式 典
42	3月28日(火)	大根小中学校運営協議会【教育指導課】	挨拶及び委嘱状の交付	会 議

### 3 教育委員会の活動状況についての点検・評価

教育委員会の役割、教育委員会会議の活性化・透明性及び教育に関する情報収集の4つの視点から点検し、教育長・教育委員による評価を行いました。

点検項目	内容 ( )は令和3年度	評価・意見
教育委員会の役割について	指揮監督等 ○指揮監督案件数 187件(173件) ○改善・充実等の指示・意見等数 32件(29件) ○反映等の結果 反映・実施          24件( 5件) 検討・一部反映      7件(20件) 現状維持・未実施    1件( 4件)	様々な分野の教育委員が判断に偏りが出ないように、審議や協議等を行い、住民のニーズに適切に対応できる教育行政の実現のため、活発な議論を行った結果、より良い効果をもたらす具体的な指示や意見の発言につながった。 今後も教育を取り巻く現状や住民のニーズの把握に努め、課題解決に向けて適正な活動を行っていききたい。

点検項目	内容 ( )は令和3年度	評価・意見
教育委員会 会議の活性化について	開催回数 ○定例会 12回(12回) ○臨時会 0回(0回) ※規則で定める回数は毎月1回 ○欠席委員数 延べ0人(延べ0人)	<p>引き続き、新型コロナウイルス対策を徹底し、毎月開催する定例会を開催した。定例会の開催に当たっては、会議資料を事前に送付し、課題に対する内容を十分に把握したうえで、教育施策の充実に向けた審議や協議等に努めた。</p> <p>教育委員会会議以外の活動としては、新型コロナウイルスの影響を受けつつも、徐々に活動が再開されたことに伴い、会議や式典等への参加回数が増え、合計42回、延べ67人が参加した。</p> <p>総合教育会議にて、学校教育の情報化や教育水準の改善・向上等、各種教育行政について協議及び調整を行い、市長との教育施策の方向性の共有に努めた。</p> <p>今後も、教育委員会会議の一層の活性化を図るとともに、教育行政全般にわたり、慎重かつ迅速な審議に努めながら、教育委員会並びに教育委員の活動のさらなる充実に努めていきたい。</p>
	教育委員会会議以外の活動 ○園・学校教育訪問 1回(5回)延べ 1人(9人) ○学習会 1回(1回)延べ 5人(5人) ○会議 24回(15回)延べ 33人(27人) ○視察 0回(0回)延べ 0人(0人) ○事業参加 1回(3回)延べ 4人(10人) ○式典等 15回(8回)延べ 24人(21人)	
	活性化への取組 ① 資料は、会議開催3日前に事前配布 ⇒報告時間の短縮により質疑応答時間を確保 ② 教育委員会の規則等の改廃は、教育委員の意見を反映するため、議案提出の前月定例会で協議事項として提出 ③ 次年度予算は、編成の始まる時期に協議し、教育委員の意見を反映	
教育委員会 会議の透明性について	傍聴者数 ○延べ 16人(延べ15人)	<p>教育委員会会議の傍聴者数は、令和3年度と比べてほぼ同数である。</p> <p>引き続き、会議録等を市ホームページに公開するなど、様々な情報発信を行っていく。</p> <p>教育行政を取り巻く環境は多様化、複雑化しており、課題解決に向けて地域と連携した取組が求められている中で、教育行政について、市民に広く周知する必要性が高くなってきていることから、引き続き、市ホームページや広報誌などを活用して本市の取組や対応状況等の情報発信の充実に努め、一層の透明性の確保に努めていく。</p>
	会議録の公開 ○会議録承認後、ホームページ及び市役所内にある行政情報閲覧コーナーで公開	
	情報発信 ○教育委員の名簿をはじめ、教育委員会の概要を「秦野の教育」として、市ホームページで紹介 ○教育委員会の開催日時、予定される議題等をホームページに事前掲載し、公告	



点検項目	内容 ( )は令和3年度	評価・意見
教育に関する情報収集について	視察等 ①事務局の学校訪問等に教育委員が同行し、学校現場の状況を把握 1回(5回) ②教育施策等の視察を実施 0回(0回)	教育委員の活動を活発かつ、適切に行うためには、教育行政、学校現場等の教育を取り巻く状況の把握が重要となってくる。そのため、園・学校教育訪問等に教育委員が同行し、子どもたちが安全で安心な学校生活を送れるよう、引き続き、教職員等の意見を聴く場に積極的に参加するとともに、本市が抱える課題に対して現状に適した有効な方針が検討できるよう、国や他の自治体における教育課題や事例の情報収集を行い、視野を広く持った教育行政の運営に努めていく。
	研修会等への参加 ○必要に応じ、研修会等へ参加 1回(0回) ※新型コロナウイルスの影響により、オンラインによる研修会に参加。	

教育委員会の活動状況に対する総合評価
<p>教育現場で抱えている様々な教育課題に対し、市長と教育委員会が互いの役割と責任をもって適切に対処していくという基本原則のもとに、今後の教育施策の方向性を共有し、連携を密にすることで、迅速かつ円滑に教育行政のより一層の推進を図るため、総合教育会議を2回開催し、学校教育の情報化の推進、教育水準の改善・向上、次年度における教育部の重要施策について協議を行い、施策の推進に当たって市長と教育委員会の共通認識を深めた。</p> <p>学校教育の情報化の推進については、令和5年度に更新を予定している学校ネットワークシステムに関して、現状の課題等を整理し、次期システムへの更新に向けた検討を進めた。</p> <p>教育水準の改善・向上では、非認知能力の育成と個の伸びに着目した学びの基盤プロジェクトへの参加校を拡充するとともに、地方教育アドバイザー制度を活用して国の情報や助言を生かした施策の展開に努めた。</p> <p>園小接続カリキュラムについては、カリキュラムモデルの策定や、幼保連絡協議会を中心とした庁内関係各課との連携強化などに取り組み、幼児教育の質の向上に向けた公私・園種を超えた環境体制づくりを行った。また、令和6年度から乳幼児教育保育支援センターをはだのE-Lab内に</p>

創設する方針を決定した。

中学校給食の推進では、生徒保護者、地元生産者や商業者などから広くアイデア献立を募集した。また、ふるさと秦野給食DAYなど、関係機関や生産者と連携したオール秦野産の給食提供により、学校給食における地産地消の取組を推進するとともに、中学校給食に対する意見を聴取するため、PTA試食会を実施した。

生涯学習に係る取組については、当日来場できなかつた方でも後日講座を受講できるよう、市公式YouTubeにおいて動画配信を行い、多様化する学習ニーズに合わせた学習機会の提供を図った。また、令和4年10月に電子図書館を導入し、利用者のライフスタイルに合った読書環境の充実を図った。

引き続き、複雑化、多様化する教育課題の現状に即した教育施策の実現に向けて、環境整備を推進していく。新しい生活様式を踏まえ、これまでの成果や課題を土台に、本市の豊かな地域資源を活用できる先進事例を積極的に取り入れ、教育目標に掲げた人づくり、快適な教育環境づくりに努めていきたい。

## 第3章 令和4年度主要施策

### I 「令和4年度主要施策」の点検・評価

#### (1) 自己点検・評価

ア 秦野市教育振興基本計画に位置付けられた主要施策（20施策）について、主管課等が自己点検・評価を実施しました。

イ 自己点検・評価をするに当たり、「成果に対する評価」、「取組に対する評価」、「改善の必要性」、及び「目標達成状況」の4項目について、主管課等及び部長の評価をA、B、C、Dの4段階で自己点検・評価を行いました。

#### (2) 教育施策点検・評価会議の評価

ア P T A役員や元学校長の学校教育関係者、社会教育委員、図書館協議会委員で組織する「教育施策点検・評価会議」において、主管課等が自己点検・評価した主要施策について客観的な評価を行いました。

イ 教育施策点検・評価会議においても、自己評価と同様に、A、B、C、Dの4段階での評価を行いました。

#### (3) 教育長・教育委員の評価

ア 点検・評価の方法

秦野市教育振興基本計画に位置付けられた主要施策（20施策）について、主管課等と施策の取組内容等について相互に意見交換をする学習会を実施し、教育施策点検・評価会議の評価を踏まえて各施策について点検・評価を行いました。

イ 点検・評価の表記

(ア) 文章表記（要旨）

各教育委員から出された意見、要望、協議内容等を列記しています。

(イ) 4段階評価（ランク）

各項目について、次表のとおり、A、B、C、Dの4つのランクでの教育委員会としての評価を行いました。

ランク	評価A～Dの内容について
A 確実な成果を出している	<ul style="list-style-type: none"> <li>○目標値に向けて計画のとおり実施することができ、優れた取組が見られた。</li> <li>○当初の目的を達成し、事業が完了した。</li> </ul>
B 一定の成果を出している	<ul style="list-style-type: none"> <li>○施策としての充実した事業が行われた。</li> <li>○目標値への具体的な取組が十分に表れている。</li> </ul>
C やや成果が低い	<ul style="list-style-type: none"> <li>○取組方法等を見直すことにより今以上の成果が期待できる。</li> <li>○施策推進の計画や方法を再考する必要がある。</li> <li>○更に工夫・改善が必要である。</li> <li>○一定の成果を上げて事業が完了したが、課題が残った。</li> </ul>
D 成果が低い	<ul style="list-style-type: none"> <li>○費用対効果がほとんど上がっていない。</li> <li>○内容の抜本的な見直しや、廃止の検討が必要である。</li> </ul>

(ウ) 令和4年度主要施策（20施策）の点検・評価結果

A評価： 4施策

B評価： 15施策

C評価： 1施策

D評価： 0施策

この評価結果を今後の施策実施に反映し、市民ニーズを的確に捉え、常に工夫改善をすべきであると考えます。

(4) 令和4年度主要施策一覧

No.	施策名	評価
基本方針1	全ての子どもたちの可能性を引き出す新たな学びのスタイルにより、持続可能な社会を創り出す力を育みます。	
1	新たな学びプロジェクトの展開【重点施策】	B
2	インクルーシブ教育の推進	B
3	いじめ・不登校等の対策の推進	C
4	一人ひとりを大切にした特色のある幼児教育の推進	B
基本方針2	地域とともにある学校づくりを推進します。	
5	学校マネジメントの強化【重点施策】	B
基本方針3	子どもたちが安心して学ぶことができる学習環境と質の高い教育を支える教育環境を整備します。	
6	学校における働き方改革の推進	B
7	学校施設長寿命化の推進	B
8	学校における省エネ対策の推進	A
9	学校管理下の安全確保の推進	A
10	学校教育の情報化の推進	B
11	中学校給食の推進【重点施策】(学校給食の推進)	A
12	教育施設の一体的整備の推進	B
基本方針4	市民の誰もが豊かな人生を送ることができるよう、生涯にわたり学び続けることができる環境づくりを推進します。	
13	地域コミュニティの活動拠点としての公民館事業の充実	B
14	魅力ある地域学習の推進【重点施策】	A
15	市民の生涯学習を支える読書活動への支援	B
16	子ども読書活動の推進【重点施策】	B
17	施設長寿命化の推進(公民館)	B
18	施設長寿命化の推進(図書館)	B
基本方針5	地域の歴史資源の保存・活用を通じ後世への継承に努めます。	
19	歴史資源等の保存・管理の推進	B
20	文化財・歴史資源等の活用の推進【重点施策】	B

# 令和5年度（4年度事業） 点検・評価シート

主管課名	学校教育課 教育指導課 教育研究所
教育 プランの 位置付け	1-1(1)

No.1	施策名	新たな学びプロジェクトの展開【重点施策】
施策の概要	目的	学習指導要領で求められている確かな学力の定着に向けて、園小中一貫教育を軸とした教育指導施策を展開し、子どもたちの学ぶ意欲や非認知能力を育み、教育水準の改善・向上を図る。
	今後の方向性	平成23年度から取り組んできた子どもたちの育ちや学びの連続性を意識した園小中一貫教育をさらに推進するとともに、学力の基盤となる非認知能力に着目した授業改善に各校と協働的に取り組む。 また、各校と協働した教育指導施策の展開やGIGAスクール構想を軸としたICT活用推進等により新たな学びのスタイルの構築に取り組む。
	主な取組	①園小中一貫教育の推進 ②学びの基盤プロジェクトの推進 ③新たな学びステップアップ事業の展開 ④GIGAスクール構想の推進 ⑤情報モラル教育の推進 ⑥わくわく読書プランの推進 ⑦はだのっ子寺子屋事業の推進
施策の進捗状況	取組内容	①園小中一貫教育の推進
	R4事業内容	園小接続カリキュラムの策定を進めるとともに、コミュニティ・スクール事業との連動等、地域の教育力を生かした教育活動の展開を充実させた。また、小学1年生の授業参観を通じて、私立園も含めた園小の教員による意見交換を実施した。
	R5事業予定	北幼・小及び西幼・小をモデル校として園小接続カリキュラム（モデル）を試行するとともに、義務教育学校も視野に入れた小中合同のコミュニティ・スクールの設置を進める。
	取組内容	②学びの基盤プロジェクトの推進
	R4事業内容	非認知能力の育成と個の伸びに着目した学びの基盤プロジェクトへの参加校を8校に拡充し、地方教育アドバイザー制度も活用して国の情報や助言を施策に反映し、取組を推進した。また、調査結果を踏まえ、改善が見られた教員の好事例を共有する場を設けるなど、教育水準の改善・向上に努めた。
	R5事業予定	参加校を15校に拡充するとともに、実施学年を小学4年生から中学3年生までに拡充し、「学びのカルテ」を生かした授業改善を図っていく。
	取組内容	④GIGAスクール構想の推進
	R4事業内容	ICTマイスター制度を拡充するとともに、スマートスクール構想連絡協議会を立ち上げ、CBT化によるワークフローゼロの取組を推進した。
	R5事業予定	GIGAスクール構想の次のステージを見据え、学習端末の日常的な活用から、より効果的な活用へ、有識者等を招聘し研修の充実を図るとともに教育分野におけるデジタルトランスフォーメーションを実現するために、スマートスクール研究部会を立ち上げ、CBT化の取組を進める。
	取組内容	⑥わくわく読書プランの推進
	R4事業内容	読書活動推進校を指定し、朝読書の取組を推進するとともに、はだのっ子アワード読書活動部門での「読書の森」事業を推進した。
	R5事業予定	毎月第一月曜日を「よむよむDAY」として、市内一斉の読書活動の推進を図るとともに、読書活動推進校において、電子図書の試行等にも取り組む。
	取組内容	⑦はだのっ子寺子屋事業の推進
	R4事業内容	地域学校協働活動の取組として、北地区及び西地区で市民力を生かした放課後学習支援事業を142回実施し、延べ67人の参加があった。
	R5事業予定	北地区及び西地区に加えて、新たに本町地区での寺子屋事業の本格実施を展開するとともに、生活困窮世帯に向けた学習支援事業との一本化を進めていく。

課題及び工夫・改善事項		学校と教育委員会との協働した取組を推進するに当たり、教員が子どもと向き合う時間の確保に向けて、引き続き教育分野のデジタルトランスフォーメーションを進めていく必要がある。また、読書活動や寺子屋事業も含めて、子どもたちの個別最適な学び・協働的な学びの実現が求められる。						
施策の目標	年度	令和2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	
	指標名	目標値 実績値	目標現状値(R1)	-	-	目標中間値	-	目標値
		実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
	平均正答率	本市 60.2% 全国 63.8%	-	-	全国平均	-	全国平均以上	
		実施せず	本市 60% 全国 64%	本市 58% 全国 62%				
	全国学力・学習状況調査における集計値	学習意欲	60.4%	-	-	64%	-	68%
		実施せず	58.7%	57.2%				
	非認知能力	71.2%	-		77%		81%	
		実施せず	77.1%	74.9%				
	ICTの活用	-	-	-	80%	-	90%	
71.9%		77.8%	公表前					
施策の評価項目								
成果に対する評価	施策の目標値に対して、期待した成果を達成したか。 (凡例) A 目標値以上 B 目標値を達成 C 目標値をおおむね(70%)達成 D 目標を未達成							
	自己評価	部長評価	主な理由					
	C	C	コロナ禍の影響もあり全国学力・学習状況調査における集計結果については、全国平均正答率に及ばなかったものの、学びの基盤プロジェクト実施校では改善している。					
取組に対する評価	施策の取組内容は、充実したものであったか。 (凡例) A 非常に充実していた B 充実していた C あまり充実していなかった D 充実していなかった							
	自己評価	部長評価	主な理由					
	B	B	学びの基盤プロジェクト実施校が増加したことに加え、各校の結果の分析検討会や好事例の実践共有に係る研修会を実施するとともに、文部科学省地方教育アドバイザーの助言も生かした施策の展開に努めた。					
改善の必要性	今後の施策実施に当たり、方法等に改善の必要はあるか。 (凡例) A 必要なし B 当面必要なし C 必要あり D 大いに必要あり							
	自己評価	部長評価	主な理由					
	C	C	園小中一貫教育を軸として、義務教育学校を視野に入れた研究を進めるとともに、個の伸びに着目した学びの基盤プロジェクトを継続し、子どもたちの変化を経年で捉えて、授業改善につなげ、教育水準の改善・向上を図る必要がある。					

施策の総合評価		凡例	
		A：計画以上 B：計画通り C：少し遅れた D：大きく遅れた	
目標達成状況 (自己評価)	評価	評価に関する意見	
	C	<p>児童生徒一人ひとりの非認知能力と学力の定着度合いに着目した学びの基盤プロジェクトの導入により、各校と協働した授業改善が進み、さらに本市独自のICTマイスター制度の導入等によりタブレットを活用した新たな学びのスタイルへの変革が進んだ。一方で、市全体での全国学力・学習状況調査の結果については、目標達成には至っておらず、更なる取り組みの充実が求められている。特に主要施策となる学びの基盤プロジェクトについては市内全校での実施も視野に入れて、更なる充実を図っていききたい。</p>	
点検・評価会議の 評価	評価	評価に関する意見	
	B	<p>学びの基盤プロジェクトは、若干事例の共有化が不足しているように考えるため、オンライン研修などを視野に入れながら、好事例を広め授業改善につなげていく取組を進めてもらいたい。また、非認知能力の育成は、学習者である子どもの能力の基礎をなすものであることから、あらゆる取組の中で重視していくことを期待したい。</p> <p>ICTマイスター制度については、制度の定着とその成果が見られると考える。</p>	
教育長・教育委員 の評価	評価	評価に関する意見	
	B	<p>学力の定着と教育水準の向上を目指して、学びの基盤プロジェクトや教師の学びのステップアップ講座、放課後はだのっ子寺子屋事業など、多方面からのアプローチがなされている。市内全域への広がりを期待し、本市の教育の底上げを進めてもらいたい。園小中一貫教育の実現に向けて、園小接続カリキュラムの作成やふるさと科の研究、小学校の教科担任制と義務教育学校を視野に入れた小中合同のコミュニティ・スクールの設置等、現在の取組をさらに進めてほしい。ICTマイスターを中心に、学習端末の活用が進んでいることやCBT化にも取り組まれていること。今後、教員間での共有がさらに進んでいくことで秦野市全体としての底上げを期待したい。</p>	





# 令和5年度（4年度事業） 点検・評価シート

主管課名	教職員課 教育指導課
教育 プランの 位置付け	1-3(1)

No.2	施策名	インクルーシブ教育の推進
施策の概要	目的	多様化する子どもたちの教育課題に対応するため、合理的配慮を踏まえたインクルーシブ教育を推進し、個に応じた支援体制の充実を図る。
	今後の方向性	全ての教職員が適切に支援ニーズへの対応ができるよう、スキルアップを図るための研修内容の充実を図るとともに、児童生徒へのきめ細やかな支援を行うため、教育支援助手、特別支援学級介助員の効果的な配置に努める。 また、すべての児童生徒に合理的配慮が実現するよう、通級指導教室の効果的な運用や外国につながる児童生徒への支援体制の整備を推進する。
	主な取組	①特別支援学級介助員の派遣 ②教育支援助手の派遣 ③大学生による学習支援の推進 ④通級指導教室の充実 ⑤日本語指導協力者の派遣
施策の進捗状況	取組内容	①特別支援学級介助員の派遣
	R4事業内容	特別支援学級在籍児童生徒の増加に伴う支援ニーズを踏まえ、前年度比2人増となる介助員56人を小学校12校、中学校2校に派遣し、学習活動の補助や生活介助等を行った。
	R5事業予定	引き続き56人の特別支援学級介助員を派遣し、合理的配慮を踏まえ、個に応じた支援を行うとともに、介助員に対して特別支援教育等コーディネーターによる研修を実施する。
	取組内容	②教育支援助手の派遣
	R4事業内容	66人の教育支援助手を派遣し、支援を必要とする子どもについての理解と認識を深め、日常の教育活動の充実に努めた。
	R5事業予定	引き続き66人の教育支援助手を派遣し、個に応じたきめ細やかな支援の取組を進めるとともに、教育支援助手に対して特別支援教育等コーディネーターによる研修を実施する。
	取組内容	③大学生による学習支援の推進
	R4事業内容	コロナ禍の状況の中で、メンタルフレンドを9人派遣し、支援の必要な児童生徒に対して、適切な支援につなげた。
	R5事業予定	大学生に対してフォローアップ研修会を行い、支援方法や困ったことなどの対応策と一緒に考え、フォロー体制を構築していく。
	取組内容	④通級指導教室の充実
	R4事業内容	本町中学校に通級指導教室を開設し、小学校にまなびの教室3校、ことばの教室2校、中学校に通級指導教室2校を配置した。特に生徒の発達段階を考慮し、中学校は巡回型とした。
	R5事業予定	ことばの教室担当教諭を3人から4人に、中学校通級担当教諭も3人から4人に増員し、指導者の育成を図りつつ、個々の支援ニーズに応えられるよう通級の拡充を行う。
	取組内容	⑤日本語指導協力者の派遣
	R4事業内容	日本語指導を必要とする児童・生徒の増加に伴い、小・中学校に日本語指導協力者を14人派遣し、様々な問題を解消し、よりよい生活を送ることができるよう指導・援助した。
	R5事業予定	13人の日本語指導協力者を派遣し、引き続き外国人児童生徒日本語指導推進事業を進める。
課題及び工夫・改善事項	全体の児童生徒数が減少する一方、合理的配慮を必要とする児童生徒数の増加に伴い、一人でも多くの人的支援が求められているが、厳しい財政状況の中、量から質への転換が迫られており、ボランティアの拡充や介助員、支援助手一人ひとりのスキルを向上させるための更なる工夫・改善が必要である。 また、共生社会を目指していくうえで、学校を取り巻く環境の架け橋となる特別支援教育等コーディネーターや専門相談員を派遣し、保護者、教職員を支える体制を構築していく必要がある。	

施策の目標	年度	令和2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	
	指標名	目標値実績値	目標現状値(R1)	-	-	目標中間値	-	目標値
			実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
全国学力・学習状況調査における支援教育に関する集計値		31.8%	-	-	40%	-	50%	
実施せず								
施策の評価項目								
成果に対する評価	施策の目標値に対して、期待した成果を達成したか。 (凡例) A 目標値以上 B 目標値を達成 C 目標値をおおむね(70%)達成 D 目標を未達成							
	自己評価	部長評価	主な理由					
	C	C	現状を認識し、取組を行っているものの、更なる向上を目指している学校が増えたが、「よく行っている」と答えた学校が減った。					
取組に対する評価	施策の取組内容は、充実したものであったか。 (凡例) A 非常に充実していた B 充実していた C あまり充実していなかった D 充実していなかった							
	自己評価	部長評価	主な理由					
	C	C	個に応じた支援体制を図るために、アセスメントの大切さを研修等で取り扱っているが、不十分である。					
改善の必要性	今後の施策実施に当たり、方法等に改善の必要はあるか。 (凡例) A 必要なし B 当面必要なし C 必要あり D 大いに必要あり							
	自己評価	部長評価	主な理由					
	C	C	支援ニーズの高まり及び支援内容の多様化に対応するために、教員意識をさらに高める必要がある。					
施策の総合評価		凡例 A：計画以上 B：計画通り C：少し遅れた D：大きく遅れた						
目標達成状況 (自己評価)	評価	評価に関する意見						
	C	支援を必要とする児童生徒数は、年々増加していることから、教育支援助手、特別支援学級介助員の配置だけでなく、支援級と通常級という区別なく、すべての子どもたちが同じ場所で学ぶことができるようインクルーシブ教育の在り方から、支援教育全体を見直す必要が出てきている。						
点検・評価会議の 評価	評価	評価に関する意見						
	B	本取組について、市全体として高い意識を持っていることは評価できる。特に支援員を必要とするケースでの指導の質をさらに高めるため、介助員、メンタルフレンド等の人員確保に努めていくべきである。将来的には、地域人材活用の取組にも目を向けていただきたい。 また、インクルーシブ教育の基本的な理念や考え方を浸透させ、意識をより一層高めるための教職員への研修等を充実させるとともに、研修対象の幅を広げることも大切であるとする。						
教育長・教育委員 の評価	評価	評価に関する意見						
	B	支援の必要な児童生徒は早期からの教育相談や支援が重要であり、インクルーシブ教育の観点からも教育支援協議会の果たす役割は大きい。人的支援では、様々な施策により効果を上げてきていると思うが、研修の充実を図り、インクルーシブ教育についてより具体的な共通理解のもと、保護者との連携を密にし、個に応じた合理的配慮となるよう望む。また、人的支援のみならず、基礎的環境整備の観点からも進めていく必要がある。						

# 令和5年度（4年度事業） 点検・評価シート

主管課名	教職員課 教育指導課 教育研究所
------	------------------------

No.3	施策名	いじめ・不登校等の対策の推進	教育 プランの 位置付け	1-4(2)
施策 の 概 要	目的	いじめの未然防止を図るため、「いじめ防止基本方針」に従い早期発見、早期の組織的な対応の定着に向けた取組を強化する。 また、新たな学びの場を求める児童生徒の将来の社会的自立に向けた支援を行う。		
	今後の方向性	心理や福祉の専門家等による相談・支援体制を充実させ、児童・生徒の抱える課題に対して、学校と関係機関、地域との連携・協働をより一層深化させたチーム学校を目指す。 また、教育支援教室「いずみ」や訪問型個別支援教室「つばさ」を核とした支援体制を充実させ、新たな学びの場の保証と個に応じた支援が行われるよう整備を図る。		
	主な取組	①チーム支援体制の推進 ②学校内外の相談体制の充実 ③いじめを考える児童生徒委員会 の推進 ④教育支援教室「いずみ」の充実 ⑤訪問型個別支援教室「つばさ」の充実		
施策 の 進 捗 状 況	取組内容	①チーム支援体制の推進		
	R4事業内容	「いじめ防止基本方針」に沿った対応を推進し、「児童生徒指導担当者会」や「いじめ問題対策連絡協議会」等あらゆる機会を活用し、いじめの定義の確認、早期発見、早期の組織的な対応の定着を図った。		
	R5事業予定	引き続き「いじめ問題対策調査委員会」による第三者評価の活用を図り、「児童生徒指導担当者会」、「いじめ問題対策連絡協議会」等と連携した「いじめ防止基本方針」に沿った対応の推進を図る。		
	取組内容	②学校内外の相談体制の充実		
	R4事業内容	スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーと連携した支援体制の強化を図り、児童生徒や保護者への更なる支援に向けて中学3年生を対象に「ヤングケアラーに関するアンケート」を実施し、現状把握に努めた。		
	R5事業予定	心理や福祉の専門家と連携した支援体制の強化と児童生徒及び保護者向けの相談窓口である「はだのっ子あんしん相談室」等の相談窓口の周知を図る。		
	取組内容	③いじめを考える児童生徒委員会の推進		
	R4事業内容	いじめを考える児童生徒委員会を4回開催した。4回目は家庭や学校、地域も参加し、「いじめを未然に防ぐために何が大切か。何ができるか。」をテーマに協議を行った。		
	R5事業予定	「いじめ撲滅」のテーマに加え、こどもたちの意見を取り入れ、未来志向の夢を語り合う場とするため、「秦野こども未来づくり会議」と名称を変更し、更なる発展を目指す。		
	取組内容	④教育支援教室「いずみ」の充実		
	R4事業内容	定期的に支援の在り方を検討し、必要に応じて、学校、専門相談員やスクールソーシャルワーカー、関係機関との連携を図りながら、児童生徒一人ひとりに合った支援を行った。		
	R5事業予定	専門相談員の参加による連絡会を定期的に開催し、支援の具体的方策に生かすとともに、教室運営上の諸課題について、指導主事も含めて連絡調整を行う。		

	取組内容	⑤訪問型個別支援教室「つばさ」の充実
	R4事業内容	各校の教育相談コーディネーターと連携し、校内ケース会議に出席したり、児童生徒、さらには保護者と面談を実施することで円滑な通室につながった。また、市独自にスクールソーシャルワーカーを配置し、個別のケースに福祉的な視点を入れることで、関係機関と連携した、家庭を含めた支援が充実した。
	R5事業予定	市独自のスクールソーシャルワーカーを令和5年度も配置し、校内のケース会議等への出席や保護者との面談を通して、学校や関係機関と連携した家庭を含めた支援を行う。また、はだのE-Lab（旧大根幼稚園園舎）を活用したサテライト展開を進めていく。

課題及び工夫・改善事項	いじめ対策については、いじめの認知方法に合わせた児童生徒への適切な支援の仕方について、学校、保護者、地域の理解を深めていく必要がある。一方、不登校数の増加が著しく、新たな学びの場を求める児童生徒への支援については、大きな課題である。福祉や心理等の専門家を効果的に運用し、新たな学びの場の保障と個に応じた支援が行われるよう体制を整備するとともに、はだのE-Labを活用した「つばさ」のサテライト展開を行うことで、不登校対策の拠点を本町地区、西地区、大根地区の3地区に拡充するほか、中長期的な視点でデジタルの活用も含めた新たな対策の調査研究を進める必要がある。
-------------	--

施策の目標	年度	令和2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	
	指標名	目標値 実績値	目標現状値(R1)	-	-	目標中間値	-	目標値
			実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
不登校児童生徒の出現率		1.64人	-	-	1.34人	-	1.21人	
		1.57人 (186人)	2.01人 (236人)	2.26人 (12月迄261人)				
認知したいじめの改善率		99.3%	-	-	99.5%	-	99.7%	
		97.6%	99.7%	公表前				
不登校児童生徒に対して専門機関等と連携した支援が行われている割合		69.5%	-	-	80%	-	85%	
		72.6%	66.1%	公表前				

施策の評価項目

成果に対する評価	施策の目標値に対して、期待した成果を達成したか。 (凡例) A 目標値以上 B 目標値を達成 C 目標値をおおむね(70%)達成 D 目標を未達成		
	自己評価	部長評価	主な理由
	C	C	「いじめを考える児童生徒委員会」をはじめとするいじめ対策事業に取り組んだ結果、経年でいじめの改善率が上昇している。一方で、不登校児童生徒の出現率は改善の必要がある。

取組に対する評価	施策の取組内容は、充実したものであったか。 (凡例) A 非常に充実していた B 充実していた C あまり充実していなかった D 充実していなかった		
	自己評価	部長評価	主な理由
	C	C	教育支援教室や訪問型個別支援教室の効果的な運営とともに、心理や福祉の専門家による助言を生かした支援を行うなど、専門機関と連携した支援が行われているが、コロナ禍の影響もあり、支援数が目標を達成できていない。

改善の必要性	今後の施策実施に当たり、方法等に改善の必要はあるか。 (凡例) A 必要なし B 当面必要なし C 必要あり D 大いに必要あり		
	自己評価	部長評価	主な理由
	C	C	「いじめ問題対策連絡協議会」等の機会を活用し、「いじめ」に関する市としての共通理解と、増加している不登校児童生徒への支援の在り方について専門家の更なる活用を図る。



施策の総合評価		凡例	
		A：計画以上 B：計画通り C：少し遅れた D：大きく遅れた	
目標達成状況 (自己評価)	評価	評価に関する意見	
	C	<p>各種いじめ対策事業に取り組むことで、認知したいじめの改善率が目標値を達成するとともに、関係機関の効果的な運用により、不登校児童生徒に対して専門機関等と連携した支援が行われている割合が目標値をほぼ達成した。</p> <p>その一方で、不登校児童生徒の出現率は増加している状況にあるため、今後も魅力ある学校づくりを進め、すべての児童生徒にとっての居場所づくりと絆づくりがより一層必要である。</p>	
点検・評価会議の 評価	評価	評価に関する意見	
	C	<p>不登校児童生徒の増加については、全国的な傾向であり、重要視していく必要がある。教育支援教室や訪問型個別支援教室の更なる充実を図るとともに、あらゆる関係機関、地域・家庭との連携の中で、子どもの置かれている状況を適切に把握し、個々に応じた指導に努めてほしい。</p> <p>一方、いじめを考える児童生徒委員会の活動を通じて、子どもたちの認知度が深まっていると感じており、委員会が果たしてきた役割は大きいと考える。今後、秦野こども未来づくり会議へと変わることによる、更なる発展を期待するとともに、その取組の周知をお願いしたい。</p>	
教育長・教育委員 の評価	評価	評価に関する意見	
	C	<p>「いじめを考える児童生徒委員会」が継続して開催されていることは意義のあることで、いじめ防止への意識の高まりや自己肯定感を高めていけるような取組が展開されていると思う。認知したいじめの改善率が上がっているので、誰もが居心地のよい学校づくりを進めるためにも「秦野こども未来づくり会議」に期待したい。</p> <p>不登校の要因は様々だが、はだのE-Labを活用したつばさのサテライト運用が行われることから、家庭や地域、関係機関との連携をさらに深め、積極的な関わりを望む。</p> <p>ヤングケアラーにも対応した相談員が配置され、相談の機会があることの周知を定期的に行い、支援につなげることを期待する。</p>	



令和5年度（4年度事業） 点検・評価シート

主管課名	教育総務課 教育研究所
教育 プランの 位置付け	1-5(1)

No.4	施策名	一人ひとりを大切にした特色のある幼児教育の推進
施策の概要	目的	幼児教育の重要性を鑑み、私立園との連携を図りながら、幼児教育の質の充実及び健やかな成長を育む環境づくりを推進する。
	今後の方向性	「秦野市幼児教育・保育環境整備計画（以下「計画」という。）」に基づき、持続可能な幼児教育環境を目指し、公私や園種の枠を超えた幼児教育の質の向上と施設配置の見直しに取り組む。 支援を必要とする幼児のよりよい発達を促すために、巡回相談事業の充実に努め、共に育ちあうことを目指す。
	主な取組	①幼児教育の質の向上 ②個に応じた支援の充実 ③公立幼稚園の配置の見直し
施策の進捗状況	取組内容	①幼児教育の質の向上
	R4事業内容	「園小接続カリキュラム」モデルの策定や、幼保連絡協議会を中心とした庁内関係各課との連携強化などに取り組み、幼児教育の質の向上に向けた公私・園種を超えた環境体制づくりを行った。また、令和6年度から乳幼児教育保育支援センターをはだのE-Lab内に創設する方針を決定した。
	R5事業予定	「園小接続カリキュラム」モデルを軸に実践研究を実施する。また、園小の円滑な接続に向け、幼児教育アドバイザーによる支援体制の試行や大学等関係機関との連携等、推進体制を構築する。さらに、令和6年度からの乳幼児教育保育支援センター機能の創設に向けて、幼児教育・保育環境整備推進委員会にて推進体制等の検討を行う。
	取組内容	②個に応じた支援の充実
	R4事業内容	共に育ち合うことを目指し、支援が必要な対象園児の保育に関わる教員の指導方法の改善・充実を図るため、弘済学園所属の専門職員等に指導・助言を受けるとともに、加配教諭を対象として個に応じた指導や保護者対応など課題を踏まえた研修会を実施した。 また、医療的ケア児の支援体制の構築に向けて、関係機関を交えた検討を開始した。
	R5事業予定	支援の必要な園児が増加する中、引き続き、弘済学園所属の専門職員等に指導・助言を受けるとともに、児童発達支援施設や支援学校等との連携を図るなど、家庭支援や個に応じた支援の充実をさらに図っていく。 また、医療的ケア児の支援体制の構築に向けて、引き続き、関係機関との検討を行う。
	取組内容	③公立幼稚園の配置の見直し
	R4事業内容	保育ニーズの高い堀川地区に位置するほりかわ幼稚園について、公私連携方式によるこども園化に向けた基本方針を策定するとともに、運営法人の公募を開始した。
	R5事業予定	ほりかわ幼稚園のこども園化に係る運営法人を決定するとともに、市・運営法人・保護者による三者協議会を設置し、令和7年度からの円滑な園運営に向けた協議を行う。
課題及び工夫・改善事項	計画の着実な推進を図るため、教育部・こども健康部がより密接に連携を図りながら、私立園との協力体制を深めていく必要がある。また、試行として幼児教育アドバイザーの配置、実証実験を行うことで、園と小学校を円滑につなぐ推進体制につなげていく。	



施策の目標	年度	令和2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	
	指標名	目標値 実績値	目標現状値 (R1)	-	-	目標中間値	-	目標値
			実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
秦野市幼児教育・保育環境整備計画に基づく施設の配置見直し	-	-	-	需給バランスに応じた配置見直しの実施	-	需給バランスに応じた配置見直しの実施		
乳幼児教育保育支援センター機能の創設	-	大根幼稚園の一体化	ほりかわ幼稚園のこども園化に係る運営法人の募集開始					
	-	分科会の設置	分科会での協議					
園小接続カリキュラムの作成	-	-	-	接続カリキュラムの作成	-	運用		
	-	部会・分科会の設置	「園小接続カリキュラム」モデルの策定					
施策の評価項目								
成果に対する評価	施策の目標値に対して、期待した成果を達成したか。 (凡例) A 目標値以上 B 目標値を達成 C 目標値をおおむね(70%)達成 D 目標を未達成							
	自己評価	部長評価	主な理由					
	C	C	「園小接続カリキュラム」モデルの策定やほりかわ幼稚園のこども園化については計画どおり進んでいるが、乳幼児教育保育支援センター機能の創設が1年遅れとなる見込みである。					
取組に対する評価	施策の取組内容は、充実したものであったか。 (凡例) A 非常に充実していた B 充実していた C あまり充実していなかった D 充実していなかった							
	自己評価	部長評価	主な理由					
	B	B	カリキュラムの策定において、公私や園種の枠を超えた活発な協議がなされ、園と小学校のつながりを示す取組ができた。					
改善の必要性	今後の施策実施に当たり、方法等に改善の必要はあるか。 (凡例) A 必要なし B 当面必要なし C 必要あり D 大いに必要あり							
	自己評価	部長評価	主な理由					
	B	B	「園小接続カリキュラム」モデルの周知・検証を行うため、令和5年度はカリキュラムの実践研究園・校として指定するなど、着実に取組を進めている。					
施策の総合評価		凡例 A：計画以上 B：計画通り C：少し遅れた D：大きく遅れた						
目標達成状況 (自己評価)	評価	評価に関する意見						
	B	カリキュラムの策定においては、公私や園種の枠を超えた部員が研究推進したことにより、園小の円滑な接続を目指し、充実した協議がなされたほか、関係課との連携を密に図り、着実に計画を推進することができた。						

点検・評価会議の 評価	評価	評価に関する意見
	C	<p>乳幼児教育保育支援センター機能の創設が現実味を増していることは評価する。しかし、公私立園の枠を超えて幼児教育の質を高めようとする思いは感じられるものの、保護者ニーズへの対応に課題が残ると考える。また、センターを中心に、職員研修の必要性等について検討が望まれる。</p> <p>園児数の減少を追及する中で、保護者が働きながらも安心して子どもを預けられるカリキュラムの実施が必要ではないかと考える。また、幼児教育を、幼保一貫教育という視点で開発することが可能な基盤が本市にはあるので、さらに質の高いカリキュラムづくりの推進に期待したい。</p>
教育長・教育委員 の評価	評価	評価に関する意見
	B	<p>秦野の幼児教育には長い歴史があるが、公私の隔たりなく研修会を重ね、園小接続カリキュラムが策定できたことは意義深い。さらに、園小中一貫教育の推進を目指しカリキュラムの活用・改善が図られることを望む。</p> <p>また、今後乳幼児教育保育支援センター機能が創設されるということで、公私の隔たりなく、本市の子ども達の健やかな成長に寄与してほしい。</p> <p>園児数の減少が進む中、ほりかわ幼稚園のこども園化については、意見交換会の御意見を真摯に受け止め、取り組まれたことは評価できる。今後も市民目線に立ち、円滑な園運営がなされるよう努力されたい。</p>



# 令和5年度（4年度事業） 点検・評価シート

主管課名	教職員課 教育指導課
教育 プランの 位置付け	2-1(1)

No.5	施策名	学校マネジメントの強化【重点施策】
施策の概要	目的	「社会に開かれた教育課程」の実現を目指した学習指導要領改訂の趣旨を踏まえ、学校と地域の連携・協働を更に推し進め「地域とともにある学校づくり」を実現するため、学校と地域が一体となった教育活動を展開し、幼児、児童、生徒の豊かな成長につなげる。
	今後の方向性	地域とともにある学校づくりを推進し、学校のマネジメント力を強化するため、令和7年度までに全ての小・中学校に学校運営協議会の設置を目指す。
	主な取組	①コミュニティ・スクールの推進 ②スクールガードリーダーの派遣

施策の進捗状況	取組内容	①コミュニティ・スクールの推進
	R4事業内容	広畑小学校、大根小学校、大根中学校、北小学校、北中学校の5校がコミュニティ・スクール設置校となるとともに、本町小学校、南小学校を研究推進校とし、学校運営協議会の全市展開に向けた取組を推進した。
	R5事業予定	引き続き、研究推進校として本町小学校、本町中学校、鶴巻小学校の取組を推進する。また、学校運営協議会で、放課後学習支援員等のボランティアを呼びかけ、学校と地域が一体となった教育活動が展開されるように連携強化を図っていく。
	取組内容	②スクールガードリーダーの派遣
	R4事業内容	地域社会の防犯・安全対策に精通するスクールガードリーダーを学校からの求めに応じて派遣し、子どもたちにとって安全・安心な地区づくりを推進した。また、取組の中で得られた情報を教育委員会だけでなく、必要に応じて他課や学校と共有することで、安全・安心な地域づくりを推進した。
	R5事業予定	引き続きスクールガードリーダーの派遣を通して、子どもたちにとって安全・安心な地域づくりを推進する。

課題及び工夫・改善事項	学校運営協議会をより活性化していくためコミュニティ・スクールディレクター及びコーディネーターの積極的運用を実施する。好事例地区については、オンラインを活用した連絡協議会等で各地区と好事例を共有し、市内の学校運営協議会の活発化を図る。また、協議会の設置に当たって、既存の「子どもを育む懇談会」と合わせて、会議の重複による教職員の多忙感や委員となる人員の確保が課題となっており、二つの事業趣旨を整理し、子どもの豊かな学びに向けて、学校と地域が協働しやすい体制づくりを進めていくことが求められる。
-------------	---

施策の目標	年度	令和2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	
	指標名	目標値 実績値	目標現状値 (R1)	-	-	目標中間値	-	目標値
			実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
コミュニティ・スクール設置校数		7校	-	-	14校	-	全小・中学校	
全国学力・学習状況調査の学校質問紙における「コミュニティ・スクールと学校の教育水準の向上の取組の関連性」に関する項目の集計値		40.9%	-	-	46%	-	50%	
		実施せず	23.1%	27.3%				
学校からの求めに応じたスクールガードリーダーの派遣回数		213回	-	-	250回	-	250回	
		162回	195回	316回				

施策の評価項目			
成果に対する評価	施策の目標値に対して、期待した成果を達成したか。 (凡例) A 目標値以上 B 目標値を達成 C 目標値をおおむね(70%)達成 D 目標を未達成		
	自己評価	部長評価	主な理由
	C	C	コミュニティ・スクールの設置校数は増加したが、学校の教育水準の向上の取組との関連性が希薄であり、より一体となった活動が求められている。
取組に対する評価	施策の取組内容は、充実したものであったか。 (凡例) A 非常に充実していた B 充実していた C あまり充実していなかった D 充実していなかった		
	自己評価	部長評価	主な理由
	B	B	学校運営協議会に生徒の声を積極的に取り入れて活動に生かす等、地域の特色に応じた子どもの学びを充実させる取組や、コミュニティ・スクールコーディネーター等が学校運営協議会に参加し、学校、地域の意見を取り入れた教育活動を実施することで、教育水準の向上の取組に一定の効果が認められた。
改善の必要性	今後の施策実施に当たり、方法等に改善の必要はあるか。 (凡例) A 必要なし B 当面必要なし C 必要あり D 大いに必要あり		
	自己評価	部長評価	主な理由
	C	C	コミュニティ・スクールへの理解が深まったことが設置校数の増加につながっているが、今後の改善事項として子どもの学びの充実に向けた取組が実施されるよう各協議会での成熟が求められる。
施策の総合評価		凡例 A：計画以上 B：計画通り C：少し遅れた D：大きく遅れた	
目標達成状況 (自己評価)	評価	評価に関する意見	
	C	コミュニティ・スクールの全市展開に向けて計画通りに推進した。一方で、学校と地域が一体となって子どもの学びを充実させる取組については、学校や地域の特色に応じた更なる工夫が求められる。今後、学校と地域における子どもの学びを充実させるために、コミュニティ・スクールディレクター・コーディネーターの積極的運用を実施していく。また、学校と地域が協働し、安全・安心な地域づくりが推進されるよう、今後も積極的なスクールガードリーダーの派遣を行っていく必要がある。	
点検・評価会議の 評価	評価	評価に関する意見	
	B	コミュニティ・スクール設置校数、スクールガードリーダーの派遣回数が増加していることは評価できるが、施策の具体的な取組や活動内容について、保護者、地域住民等に対して周知を図る必要がある。更なる充実に向けて学校運営協議会の先進地域を視察し、実態に触れることは効果的であると考え。また、スクールガードリーダーについては、全ての学校に配置されることを期待したい。	
教育長・教育委員 の評価	評価	評価に関する意見	
	B	学校における教育水準の向上の取組との関連が希薄であるために、成果に対する評価が「C」となっている。しかし、学校マネジメントの成熟とともに教育水準が上がることを目指す事業であり、施策そのものについては目標を十分達成しているので、「B」評価としても良かったように思う。 また、改善の必要性についても各協議会の成熟を求めたために「C」評価としているが、これについても目標は達成しているので、「B」評価として問題はないと考える。 以上のように、自己評価・部長評価ともに全てが少し厳しめであるように思うが、目標達成状況に書かれている現状に満足せず、高みを目指していることは評価される。	



# 令和5年度（4年度事業） 点検・評価シート

主管課名	教職員課
教育 プランの 位置付け	3-1(1)

No.6	施策名	学校における働き方改革の推進
施策の概要	目的	<p>教職員の厳しい勤務実態を踏まえ、これまでの働き方を見直し、教育水準の改善・向上のため、自らの授業を磨く。</p> <p>また、自らの人間性や創造性を高め、教職員としての自信と誇りを持って子どもたちに対して効果的な教育活動を行うことができるよう学校における働き方改革を推進し、新しい時代の教育に向けた持続可能な学校指導・運営体制づくりにつなげる。</p>
	今後の方向性	令和3年5月策定の学校業務改善推進方針で掲げた24項目の改善策について、学校現場と一体となって着実な推進を図る。
	主な取組	①学校業務の改善 ②部活動スタートアップ事業の展開 ③スクールサポートスタッフの効果的な活用
施策の進捗状況	取組内容	①学校業務の改善
	R4事業内容	スクールサポートスタッフの配置、勤務時間の適正把握などを引き続き行うとともに、「学校閉庁時刻の設定」を全中学校において完了、小学校給食費の公会計化の実施、学校閉庁日の拡大(5日⇒6日)、オンライン授業を円滑にするための授業配信用端末等の整備などに取り組んだ。
	R5事業予定	学校ICT化の推進として、学校ネットワークシステムの更新に合わせて教職員の意見・要望を踏まえた統合型校務支援システムへの移行(稼働開始は令和6年度)
	取組内容	②部活動スタートアップ事業の展開
	R4事業内容	東中学校(サッカー部)、南中学校(吹奏楽部)、大根中学校(体操部)、市内中学校剣道部で休日の学校部活動を地域部活動に段階的に移行していく取組を実践研究した。
	R5事業予定	令和4年度に実施した実践研究を継続的に実施するとともに、「秦野市部活動スタートアップ2025プラン」に基づき、第二期研究体制として東中学校を推進モデル校とすることや、東海大学や市スポーツ協会との連携を深めて、学校全体で休日の学校部活動を地域部活動に段階的に移行していく取組を行う。また、市内陸上競技部及びバレーボール部の協力のもと、学校や地域の実情に応じて地域部活動を展開していく。
	取組内容	③スクールサポートスタッフの効果的な活用
	R4事業内容	教員OBを中心に26人を任用したほか、県費スクールサポートスタッフを増員(23人⇒25人)し、全校に配置。
	R5事業予定	スクールサポートスタッフ8人を継続任用、県費スクールサポートスタッフを大幅増員(25人⇒34人)し、全校に配置する。
課題及び工夫・改善事項	学校における働き方改革は、特効薬のない総力戦といわれるように、学校のICT化を推進しつつ、教職員はもちろんのこと、学校関係者を含めた一人ひとりの意識改革と行動が大きな原動力となるため、教育委員会の安全衛生委員会ともよく連携し、教職員の健康に留意しながら、引き続き、タイミングよく、粘り強く、情報と意識の共有、協働を図りつつ、着実な推進に努める必要がある。	

施策の目標	年度		令和2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
	指標名	目標値	目標現状値(R1)	-	-	目標中間値	-	目標値
		実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
教職員ストレスチェック指数	93	-	-	前回値以下	-	前回値以下		
	91	91	98					
施策の評価項目								
成果に対する評価	施策の目標値に対して、期待した成果を達成したか。 (凡例) A 目標値以上 B 目標値を達成 C 目標値をおおむね(70%)達成 D 目標を未達成							
	自己評価	部長評価	主な理由					
	D	D	ストレスチェック指数は全国平均値の100よりも低い値であるものの、前年実績値より高くなっている。社会情勢等の変化により教職員を取り巻く環境の変化が要因として考えられることから、中長期的に見ていく必要がある。					
取組に対する評価	施策の取組内容は、充実したものであったか。 (凡例) A 非常に充実していた B 充実していた C あまり充実していなかった D 充実していなかった							
	自己評価	部長評価	主な理由					
	B	B	方針に掲げた取組項目は、ほぼ計画どおりに進捗している。					
改善の必要性	今後の施策実施に当たり、方法等に改善の必要はあるか。 (凡例) A 必要なし B 当面必要なし C 必要あり D 大いに必要あり							
	自己評価	部長評価	主な理由					
	B	B	方針に則り、計画的に取り組む中で、学校業務の工夫・改善を図りながら、業務の効率化、簡素化を柔軟に進めている。					
施策の総合評価			凡例 A：計画以上 B：計画通り C：少し遅れた D：大きく遅れた					
目標達成状況 (自己評価)	評価	評価に関する意見						
	B	コロナ禍を背景にICT化、デジタル化の積極的な環境整備に努めるとともに、その効果的な活用についても学校現場と一体となって進めることができたことに加え、学校閉庁時刻の設定について全校における導入の実現などに取り組むことができた。						
点検・評価会議の 評価	評価	評価に関する意見						
	B	働き方改革として、学校のICT化、スクールサポートスタッフの増員、部活動スタートアップ事業の推進などの取組が、徐々に浸透してきている。 部活動スタートアップ事業については、地域部活動への移行に関する情報が乏しく、関連する学校の保護者以外（他校の保護者）にも認知度が上がる取組が必要になってきているため、今後どのように展開していくか注視していきたい。 また、スクールサポートスタッフの派遣について、今後も更なる拡大を期待したいと考えるが、教職員のストレスチェック指数が前年度実績値より高くなっている原因について、引き続き分析が必要である。						
教育長・教育委員 の評価	評価	評価に関する意見						
	B	目標設定を前年度よりも高く設定しているため自己評価が厳しくなっているが、これは、例えば全国平均以下であれば“達成”とするような目標に変えるべきである。ただ、「点検・評価会議の評価」で指摘されているように、ストレスチェック指数の悪化原因については分析して対応することが求められるのは勿論であり、「B」評価と考える。						

令和5年度（4年度事業） 点検・評価シート

主管課名	教育総務課
教育プランの位置付け	3-2(1)

No.7	施策名	学校施設長寿命化の推進
施策の概要	目的	学校施設の長寿命化を計画的に進めることにより、快適で安全・安心な学習環境を確保する。
	今後の方向性	学校施設や設備の老朽化が進む中で、施設の耐用年数を踏まえた建替えなども考慮しながら、計画的に施設改修を進める。
	主な取組	①学校施設の改修
施策の進捗状況	取組内容	①学校施設の改修
	R4事業内容	令和4年度は3件の工事を実施した。 ・広畑小学校グラウンド整備工事、本町小学校屋内運動場棟屋上防水工事 ・鶴巻中学校受変電設備更新工事
	R5事業予定	令和5年度は6件の工事を実施する予定 ・本町小学校給食室棟屋上防水工事、東小学校高圧ケーブル及びP A S改修工事 ・鶴巻中学校屋上防水工事、東中学校高圧ケーブル及びP A S改修工事、渋沢中学校法面改修工事 ・西幼稚園園舎屋上防水工事
	取組内容	/
	R4事業内容	
	R5事業予定	
	取組内容	/
	R4事業内容	
	R5事業予定	
	課題及び工夫・改善事項	設備の改修においては、国庫補助事業を活用しながら実施をしているが、実施する工事内容によっては、国庫補助事業の対象外となるものもあり、財源が十分に確保できない中での改修箇所が増加に対応するため、優先順位を付けながら取り組んでいる現状である。



施策の目標	年度		令和2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
	指標名	目標値	目標現状値(R1)	-	-	目標中間値	-	目標値
		実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
今後5年間で予定している改修・更新工事(25件)の進捗率	-	-	-	60%	-	100%		
	-	20%(5件)	32%(8件)					
施策の評価項目								
成果に対する評価	施策の目標値に対して、期待した成果を達成したか。 (凡例) A 目標値以上 B 目標値を達成 C 目標値をおおむね(70%)達成 D 目標を未達成							
	自己評価	部長評価	主な理由					
	B	B	令和5年度の目標中間値に対して、令和4年度時点での進捗率は53%であり、令和5年度の事業を実施すると、その進捗率は93%となる見込みであることから、目標値を達成しているものとする。					
取組に対する評価	施策の取組内容は、充実したものであったか。 (凡例) A 非常に充実していた B 充実していた C あまり充実していなかった D 充実していなかった							
	自己評価	部長評価	主な理由					
	B	B	安全・安心で快適な学習環境の整備という視点から、当初の改修内容や実施年度を変更しているが、改修済箇所については、学校現場からも環境改善につながった旨の評価を受けている。					
改善の必要性	今後の施策実施に当たり、方法等に改善の必要はあるか。 (凡例) A 必要なし B 当面必要なし C 必要あり D 大いに必要あり							
	自己評価	部長評価	主な理由					
	C	C	財源が十分に確保できない中での改修箇所の増加に対応するため、優先順位を付けながら取り組んでいるが、学校現場とその実情を十分共有する必要がある。					
施策の総合評価			凡例 A：計画以上 B：計画通り C：少し遅れた D：大きく遅れた					
目標達成状況(自己評価)	評価	評価に関する意見						
	B	限られた財源の中で優先順位を付けて取り組んでおり、当初計画にない改修内容であっても、国庫補助の申請とあわせて柔軟に取り組んでいるため、快適で安全・安心な学習環境の確保につながっている。						
点検・評価会議の評価	評価	評価に関する意見						
	B	快適で安全・安心な施設設備は、全ての園校で望まれる。限られた財源の中で、優先順位を付け適切かつ着実に改修を行い、改善につながっていることを評価する。今後も園校の現場と実情や改修内容についての情報共有を十分に行い、計画的に進めていただきたい。						
教育長・教育委員の評価	評価	評価に関する意見						
	B	学習環境の安全・安心と国庫補助財源の有効活用を最優先し、全体を見ながら個々の状況をしっかり精査する中、適時・適切に対応されたことは評価したい。これからも現場目線を大切に、「安全の優先性と限りある財源の最大効果」という考え方のもと、子ども達が安心して学ぶことのできる施設環境の確保にお一層努めてほしい。						

令和5年度（4年度事業） 点検・評価シート

主管課名	教育総務課
教育プランの位置付け	3-2(2)

No.8	施策名	学校における省エネ対策の推進
施策の概要	目的	児童生徒の安全・安心と省エネルギー化による環境への配慮の両面から、教育環境の整備を図る。
	今後の方向性	幼稚園及び小・中学校の校舎等への高効率照明（LED照明）設備導入に係る整備計画を策定し、計画的にLED照明への更新を図る。
	主な取組	①学校施設省エネ対策の推進
施策の進捗状況	取組内容	①学校施設省エネ対策の推進
	R4事業内容	リース方式を採用し、全校においてLED照明設置工事を実施した。
	R5事業予定	エネルギー使用量の把握と学校への省エネに係る周知
	取組内容	
	R4事業内容	
	R5事業予定	
	取組内容	
	R4事業内容	
	R5事業予定	
	取組内容	
	R4事業内容	
	R5事業予定	
	取組内容	
	R4事業内容	
	R5事業予定	
	課題及び工夫・改善事項	小・中学校における照明設備のLED化について、整備手法を比較検討する中で、当初は工事による3か年の整備を予定していたが、単年度で全校への設置が可能となるリース方式を採用することで、速やかな教育環境の整備を図ることができた。

施策の目標	年度		令和2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	
	指標名	目標値	目標現状値 (R1)	-	-	-	目標中間値	-	目標値
		実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
エネルギー使用量等の削減 (照明のLED化による削減効果)	-	-	-	-	-	R2年度比15%減	-	R2年度比30%減	
施策の評価項目									
成果に対する評価	施策の目標値に対して、期待した成果を達成したか。 (凡例) A 目標値以上 B 目標値を達成 C 目標値をおおむね(70%)達成 D 目標を未達成								
	自己評価	部長評価	主な理由						
	B	B	実績値の把握は令和5年度以降となるが、全校への設置が概ね完了した令和5年3月使用分に係る使用電力量は、前年の約6割となっており、目標値を達成しているものと推定する。						
取組に対する評価	施策の取組内容は、充実したものであったか。 (凡例) A 非常に充実していた B 充実していた C あまり充実していなかった D 充実していなかった								
	自己評価	部長評価	主な理由						
	A	A	当初の3か年計画に対し、全校単年度で設置を完了することができた。						
改善の必要性	今後の施策実施に当たり、方法等に改善の必要はあるか。 (凡例) A 必要なし B 当面必要なし C 必要あり D 大いに必要あり								
	自己評価	部長評価	主な理由						
	C	C	電力使用量の削減には、照明設備だけでなく、空調使用等も大きな要因であることから、省エネの視点で効果的な使用方法等について、学校への周知を継続する必要がある。						
施策の総合評価			凡例 A：計画以上 B：計画通り C：少し遅れた D：大きく遅れた						
目標達成状況 (自己評価)	評価	評価に関する意見							
	A	整備手法を工事からリース方式に変更することで、経費の節減、予算の平準化及び整備期間の短縮を図ることができた。							
点検・評価会議の評価	評価	評価に関する意見							
	B	リース方式を採用し、単年度で全校にLED照明の設置が完了したことは評価でき、今後の使用電力量の削減が期待される。また、空調使用等における省エネの視点に立った周知を継続するとともに、教育現場において具体的な使用方法を考えるなど、能動的な取組も必要と思われる。							
教育長・教育委員の評価	評価	評価に関する意見							
	A	省エネ対策の大きな施策であった「全校LED照明設置工事」が、整備手法の比較検討により単年度で完結されたことは大いに評価する。また、エネルギー使用量の多い空調設備の使用に当たっては、空調設備の使用法を含め、子ども達の意識や行動を変える省エネ対策の議論が深められるような学びの場が整備されていくことを期待したい。							

令和5年度（4年度事業） 点検・評価シート

主管課名	学校教育課
教育 プランの 位置付け	3-2(3)

No.9	施策名	学校管理下の安全確保の推進
施策の概要	目的	<p>児童生徒の登下校時の安全を確保するため、学校から整備・改善要望を受けた通学路の危険箇所等について、学校、保護者、教育委員会、関係課及び秦野警察署が合同点検を実施し、必要性や優先順位等を見極めながら安全対策を更に強化する。</p> <p>また、安全で安心な給食を提供するため、施設及び設備の適正な維持管理と計画的な改修・更新を進める。</p>
	今後の方向性	<p>児童生徒の登下校時の安全・安心のため、引き続き、学校、保護者、教育委員会、関係課及び秦野警察署が連携し、必要に応じて所有者等の協力を得ながら安全対策を進める。</p> <p>また、国県道の安全対策について、それぞれの道路管理者と連携する。</p> <p>さらに、教育施設の一体化等を見据えながら、小学校給食室及び給食設備の計画的な改修及び更新等に取り組み、安全で安心な給食の安定的な提供に努める。</p>
	主な取組	①通学路の安全確保 ②小学校給食調理設備等の計画的な改修
施策の進捗状況	取組内容	①通学路の安全確保
	R4事業内容	<p>【通学路危険箇所への対応】</p> <p>各校からの整備要望箇所に対して、学校、秦野警察署、道路管理者、市交通安全所管課及び教育委員会による合同点検等により対策案を検討し、各部署において対策を実施した。また、学識経験者等を構成員とした「秦野市通学路安全対策推進懇話会」を新設し、安全対策等に対して客観的な視点からの助言を受け、通学路の安全確保に向けた取組を着実に進めることができた。</p> <p>【登下校時の見守り活動】</p> <p>警察官OB等をスクールガードリーダーとして派遣し、地域ボランティアの養成、危機管理体制に対する指導・助言、定期的な園・学校内外の巡回パトロールを行い、安全・安心な体制づくりを推進した。また、日常生活の中で気軽に見守り活動を行っていただける方を対象とした「通学路見守りサポーター登録制度」を開始し、地域との協働による見守り体制の強化を図ることができた。</p>
	R5事業予定	<p>合同点検等による安全対策の実施を進めるとともに、昨年度新設した通学路安全対策推進懇話会の効果的な運営について検討を進め、通学路の安全確保に向けた取組を推進する。</p> <p>また、スクールガードリーダーによる見守り活動を実施するとともに、昨年度から開始した通学路見守りサポーター登録制度の効果や課題等を整理し、登下校時における児童生徒の見守り体制の拡充に努める。</p>
	取組内容	②小学校給食調理設備等の計画的な改修
	R4事業内容	<p>【小学校給食調理室の改修整備】</p> <p>総合計画に位置付けた老朽化した給食調理室の改修整備を計画的に行った。（本町小学校）</p> <p>【学校給食センターの活用を踏まえた提供方針の検討】</p> <p>安全・安心で安定的な給食提供を実施するため、児童生徒数の推移や義務教育学校等の整備計画等を踏まえ、給食調理員の適正配置と提供方針の検討を行い、令和5年度から開始する東小学校の調理委託の準備を進めた。</p>
R5事業予定	<p>【小学校給食調理室の改修整備】</p> <p>安全・安心な給食を提供するため、総合計画に位置付けた老朽化した給食調理室の計画的な改修整備を行う。（南が丘小学校）</p> <p>【学校給食センターの活用を踏まえた提供方針の検討】</p> <p>安全・安心で安定的な給食提供を実施するため、児童生徒数の推移や小中学校の一体化の方針を踏まえ、給食調理員の適正配置と提供方針の検討を行う。</p>	



課題及び 工夫・改善事項		通学路の安全対策については、優先順位の判断等が困難な状況であることから、学識経験者等を構成員とする通学路安全対策推進懇話会の助言を受けながら、整備基準等の策定について検討を行う必要がある。						
施策の 目標	年度	令和 2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	
	指標名	目標値 実績値	目標現状値 (R1)	-	-	目標中間値	-	目標値
		実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
	情報提供を受けた通学路 の危険箇所のうち、即応 可能な案件への対応	100%	-	-	100%	-	100%	
	計画的な給食施設の改 修	-	-	-	1施設/年	-	1施設/年	
			1校	1校				
	先行的な備品等の入 替・修繕	緊急度合による 順位付け対応	-	-	備品台帳に基づ く計画的な入替	-	備品台帳に基づ く計画的な入替	
		100%	100%					
施策の評価項目								
成果に 対する 評価	施策の目標値に対して、期待した成果を達成したか。 (凡例) A 目標値以上 B 目標値を達成 C 目標値をおおむね(70%)達成 D 目標を未達成							
	自己評価	部長評価	主な理由					
	B	B	情報提供を受けた通学路の危険箇所の内、即時対応可能な案件については、すべて対応を行うことができた。(令和4年度対応件数：12件)					
取組に 対する 評価	施策の取組内容は、充実したものであったか。 (凡例) A 非常に充実していた B 充実していた C あまり充実していなかった D 充実していなかった							
	自己評価	部長評価	主な理由					
	A	A	通学路安全対策推進懇話会及び通学路見守りサポーター登録制度を新設し、安全確保に向けた取組を着実に進めることができた。					
改善の 必要性	今後の施策実施に当たり、方法等に改善の必要はあるか。 (凡例) A 必要なし B 当面必要なし C 必要あり D 大いに必要あり							
	自己評価	部長評価	主な理由					
	B	B	令和3年度に「秦野市通学路交通安全プログラム」を全面改定したところであり、当面は新プログラムに沿った対応を進める。					
施策の総合評価		凡例 A：計画以上 B：計画通り C：少し遅れた D：大きく遅れた						
目標達成状況 (自己評価)	評価	評価に関する意見						
	B	秦野市通学路交通安全プログラムに基づき、学校、警察、道路管理者等による合同点検等を実施し、通学路の安全対策を推進することができた。また、通学路安全対策推進懇話会及び通学路見守りサポーター登録制度を新設し、安全確保に向けた取組を拡充することができた。						

点検・評価会議の 評価	評価	評価に関する意見
	B	通学路安全対策推進懇話会、通学路見守りサポーター登録制度と新たな取り組みを開始したことは評価できる。今後も現場の声を生かし、歩道の設置や死角箇所へのミラーの設置、街灯が少なく暗闇がある箇所などの把握と改善について、継続した取組に努めていただきたい。
教育長・教育委員 の評価	評価	評価に関する意見
	A	通学路危険箇所のうち、即時対応可能な案件についてはすべて対処され、その迅速な対応は大いに評価する。今後は、残っている改善すべき危険箇所について、関係部署と粘り強く解決策を模索し、通学路見守りサポーターの方々とともに、地域全体で通学時における子どもたちの安全を確保していく土壌が各地区で形成されていくことを期待したい。また、給食調理室の計画的改修については、引き続き、食の安全を確保するためにも、細心の注意を払って進めてほしい。



令和5年度（4年度事業） 点検・評価シート

主管課名	学校教育課
教育 プランの 位置付け	3-3(2)

No.10	施策名	学校教育の情報化の推進
施策の概要	目的	次代を拓く子どもたちに公正で最適な学びを提供するため、ICT環境を整備し、「学校教育の情報化」を推進する。
	今後の方向性	ICTを活用し、個別最適化された学びの実現に向けた環境整備を推進する。また、児童生徒に多様な学習環境を提供できるよう、学習用ICT端末を最大限に活用できる効果的かつ効率的な環境づくりに取り組む。
	主な取組	①GIGAスクール構想の環境整備

施策の進捗状況	取組内容	①GIGAスクール構想の環境整備
	R4事業内容	児童生徒一人1台の学習用端末を適切に管理運用するとともに、オンライン授業等の実施に係る教職員の負担軽減を図るため、授業配信用タブレット端末及び教職員用ヘッドセット（マイク付きヘッドホン）を導入した。 また、令和5年度に更新を予定している学校ネットワークシステム（校務用パソコンを利用するための各種サーバ類及び統合型校務支援システム）について、現状の課題等を整理し、次期システムへの更新に向けた検討を進めた。
	R5事業予定	引き続き、学習用端末をはじめとするICT機器の適切な管理運用に努めるとともに、更新時期を迎える学校ネットワークシステムについて、教育現場の課題解決に資するシステムへの更新作業を行い、令和6年度からの本格稼働に向けた取組を進める。

課題及び工夫・改善事項	学習用端末の故障、破損等の発生を抑制するため、教職員及び児童生徒に対して継続的に端末利用に関する注意喚起を行い、適切な端末利用の推進に努める。 また、利用年数の経過に伴う学習用端末の更新について、国の動向を注視しつつ、計画的な更新方法について検討を進める。
-------------	---

施策の目標	年度	令和2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	
	指標名	目標値 実績値	目標現状値(R1)	-	-	目標中間値	-	目標値
		実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
	ICTの活用	-	-	-	80%	-	90%	
79.1%		77.8%	公表前					



施策の評価項目			
成果に対する評価	施策の目標値に対して、期待した成果を達成したか。 (凡例) A 目標値以上 B 目標値を達成 C 目標値をおおむね(70%)達成 D 目標を未達成		
	自己評価	部長評価	主な理由
	B	B	授業配信用タブレット端末及び教職員用ヘッドセットを導入し、オンライン授業の実施等、ICT活用に係る教職員の負担軽減に努めた。
取組に対する評価	施策の取組内容は、充実したものであったか。 (凡例) A 非常に充実していた B 充実していた C あまり充実していなかった D 充実していなかった		
	自己評価	部長評価	主な理由
	B	B	児童生徒が学習用端末を適切に利用できるようフィルタリング等の設定を行うとともに、故障や破損が生じた際は、教育活動に影響が生じないように予備機等による迅速な対応を行った。
改善の必要性	今後の施策実施に当たり、方法等に改善の必要はあるか。 (凡例) A 必要なし B 当面必要なし C 必要あり D 大いに必要あり		
	自己評価	部長評価	主な理由
	B	B	ICT環境整備に関する方法等の改善は不要であるが、令和2年度に導入した学習用端末については、使用年数の経過に伴う機器更新に向け、国の動向等を注視しながら検討を進める必要がある。
施策の総合評価		凡例 A：計画以上 B：計画通り C：少し遅れた D：大きく遅れた	
目標達成状況 (自己評価)	評価	評価に関する意見	
	B	学校及びICT支援員と連携し、学習用端末を適切に管理運用することができた。また、授業配信用タブレット端末等の導入により、ICTの活用に係る教職員の負担軽減に努めることができた。 さらに、教職員の意見等を聴取し、次期学校ネットワークシステム更新に向けた方向性を決定した。	
点検・評価会議の 評価	評価	評価に関する意見	
	B	円滑な運用のためのICT支援員などのフォローアップの体制づくりも整備され充実していると考えられる。教職員が仕事がしやすいようにヘッドホンを導入するなど、小さな改善を今後も継続されたい。 また、本項目は働き方改革などとも密接に関連しているため、特にICTを活用し、負担の軽減や利便性の向上を伝える授業において、授業の為の負担が増える事があってはならないと考える。	
教育長・教育委員 の評価	評価	評価に関する意見	
	B	目的に沿った施策を実施しており、ほぼ目標通りに進んでいると評価する。情報化については、すべての教職員に初めから同じ対応を求めるのではなく、得意な教職員から対応を進めていき、ある程度活用が進んだ段階で、周りの不得意とする教職員に手を差し伸べる優しさが重要であると考えられる。	

# 令和5年度（4年度事業） 点検・評価シート

主管課名	学校教育課
教育プランの位置付け	3-3(3)

No.11	施策名	中学校給食の推進【重点施策】 (学校給食の推進)
-------	-----	-----------------------------

施策の概要	目的	未来を担う子どもたちの心身の健全な育成に資するため、全ての中学校で、安全・安心でおいしい生徒が喜ぶ中学校給食を提供する。
	今後の方向性	給食センター内に職員を配置し、学校給食事務の円滑な運営に努める。 また、献立作成や食材の調達及び給食費の徴収を市が行うことで、安定的な給食の提供を行う。 さらに、食育や地産地消に継続的に取り組み、給食を通じて地域振興につながるよう、庁内の関係部局と連携を図る。
	主な取組	①学校給食の推進

施策の進捗状況	取組内容	①学校給食の推進
	R4事業内容	公会計化による小中学校給食費の徴収率の向上に取り組んだ。 生徒保護者、地元生産者や商業者など広くアイデア献立を募集するとともに、ふるさと秦野食育DAYなど、関係機関や生産者と連携したオール秦野産の給食提供により、学校給食における地産地消率の向上に取り組んだ。 また、中学校給食に対する意見を聴取するため、PTA試食会を実施した。
	R5事業予定	公会計化による小中学校給食費の徴収率の更なる向上を目指す。 生徒保護者や関係課と連携し、広くアイデア献立を募集するとともに、ふるさと秦野食育DAYなど、関係機関や生産者と連携したオール秦野産の給食提供により、学校給食における地産地消率の更なる向上を目指す。 また、中学校給食に対する率直な意見を聴取する必要があるため、PTA試食会の充実と市民向け試食会を実施する。
	取組内容	/
	R4事業内容	
	R5事業予定	
	取組内容	/
	R4事業内容	
	R5事業予定	

課題及び工夫・改善事項	地域の活性化に繋がるよう、新たな納入事業者の開拓や、関係者が効果を実感できる食材の調達方法の更なる検討、また、給食事業の円滑な運営のため、学校現場と綿密な連携を図るとともに生徒や保護者及び学校との意見交換に努める。 小中学校の残渣について、環境に配慮した持続可能な処分方法を検討する。
-------------	---

施策の目標	年度	令和2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	
	指標名	目標値	目標現状値 (R1)	-	-	目標中間値	-	目標値
		実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
学校給食食材における秦野産野菜の使用割合	37.2%	-	-	40%	-	50%		
		37.7% (中学のみ・品目)	30.2%					

施策の評価項目			
成果に対する評価	施策の目標値に対して、期待した成果を達成したか。 (凡例) A 目標値以上 B 目標値を達成 C 目標値をおおむね(70%)達成 D 目標を未達成		
	自己評価	部長評価	主な理由
	C	C	野菜類については、農業や商業の振興の観点から中学校はJAから、小学校は八百屋からと調達先をすみ分け、中学校は39.7%、小学校は21.7%、トータルの地場産率は30.2%であったが、引き続き地場産率の向上に取り組んでいく必要がある。
取組に対する評価	施策の取組内容は、充実したものであったか。 (凡例) A 非常に充実していた B 充実していた C あまり充実していなかった D 充実していなかった		
	自己評価	部長評価	主な理由
	B	B	安全・安心でおいしい給食を提供したほか、給食費の公会計化、アイデア献立募集、ふるさと秦野食育DAY、PTA試食会などを予定どおり実施できた。
改善の必要性	今後の施策実施に当たり、方法等に改善の必要はあるか。 (凡例) A 必要なし B 当面必要なし C 必要あり D 大いに必要あり		
	自己評価	部長評価	主な理由
	B	B	教育委員会と学校が連携して食育の充実や配膳の工夫などを行い、残渣の軽減を図る必要がある。
施策の総合評価		凡例 A：計画以上 B：計画通り C：少し遅れた D：大きく遅れた	
目標達成状況 (自己評価)	評価	評価に関する意見	
	B	令和4年度の給食費の徴収率は99.54%であり、中学校のみであった令和3年度の99.94%に対して0.40ポイントの減少となったが、引き続き未納者に対する督促や催告のほか、令和4年度には新たに児童手当の現金支給による徴収を行うなど、徴収率の向上に積極的に取り組んだ。 また、地産地消を推進した「ふるさと秦野食育DAY」の創設や、生徒保護者及び生産者、商業者から献立を募集し、給食に提供するなど、市民総ぐるみの給食運営に取り組んだ。	
点検・評価会議の評価	評価	評価に関する意見	
	B	地産地消を推進した「ふるさと秦野食育DAY」の創設と、保護者や関係者から献立を募集して給食に提供するなど、街全体での給食運営に取り組んでいると考える。物価高騰の中にあっては、全てを秦野産にするのではなく、経費面とのバランスを考えて無理のない範囲で継続していただきたい。また、保護者に対して給食の重要性や施策の具体的な取組について、更なる周知を図っていく必要がある。 給食の公会計化については、学校現場の働き方改革にもつながっていると考える。	
教育長・教育委員の評価	評価	評価に関する意見	
	A	中学校給食がスタートして1年余りが経過するが、街ぐるみで取り組む「秦野スタイル」の中学校給食の礎がつけられたことは高く評価する。また、小中学校給食費の公会計化により教職員の事務負担が軽減されたことは、子どもたちにとっての教育環境の充実にもつながっているものと考えている。今後も、食の安全と食育の観点を大切にしながら、子どもたちの笑顔あふれる学校給食の推進が図られることを期待したい。	

令和5年度（4年度事業） 点検・評価シート

主管課名	教育総務課
教育プランの位置付け	3-3(5)

No.12	施策名	教育施設の一体的整備の推進
施策の概要	目的	児童・生徒数の減少と施設の老朽化が進む中、学校施設が隣接する立地条件とこれまでの幼小中一貫教育の成果を踏まえ、教育施設の一体的整備を推進することで、教育環境の充実を図る。
	今後の方向性	施設の耐用年数等を踏まえ、教育施設の一体化整備の具体的な方向付けを行う。
	主な取組	①学校施設の一体的整備に係る整備手法等の検討 ②新たな学びを支える学校施設等のあり方に関する調査研究
施策の進捗状況	取組内容	①学校施設の一体的整備に係る整備手法等の検討
	R4事業内容	「新たな学びのスタイルに対応した学校施設のあり方<基本スタイル>」をとりまとめるとともに、これからの学校のあり方の検討に向けて、学校運営協議会（コミュニティ・スクール）へ「施設の老朽化」「新たな学び」「児童・生徒数の減少」等の現状に対する情報提供を行った。
	R5事業予定	・学校運営協議会との意見交換及び専門家への意見聴取 ・フォーラムやパブリックコメントの実施による市民からの意見聴取
	取組内容	②他の公共施設との集約の可能性の検討
	R4事業内容	公共施設再配置計画推進会議による庁内検討を開始
	R5事業予定	公共施設再配置計画推進会議による庁内検討の実施（他の公共施設との複合化等の検討）
	取組内容 R4事業内容 R5事業予定	
課題及び工夫・改善事項	教育施設の一体化整備の具体的な方向付けに向けては、施設環境の整備のみならず、教育的側面からの検討を行うため、学校運営協議会等との意見交換を重ねる必要がある。	



施策の目標	年度		令和2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
	指標名	目標値	目標現状値(R1)	-	-	目標中間値	-	目標値
		実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
新たな学校施設等の一体的整備の推進	-	-	-	-	施設の一体的整備の方針決定	-	施設一体化に係る「基本構想」の策定	
施策の評価項目								
成果に対する評価	施策の目標値に対して、期待した成果を達成したか。 (凡例) A 目標値以上 B 目標値を達成 C 目標値をおおむね(70%)達成 D 目標を未達成							
	自己評価	部長評価	主な理由					
	C	C	令和5年度の方針決定に向け、「新たな学びのスタイルに対応した学校施設のあり方<基本スタイル>」を取りまとめるとともに、方針に盛り込む内容の整理を行った。					
取組に対する評価	施策の取組内容は、充実したものであったか。 (凡例) A 非常に充実していた B 充実していた C あまり充実していなかった D 充実していなかった							
	自己評価	部長評価	主な理由					
	B	B	「新たな学びのスタイルに対応した学校施設のあり方<基本スタイル>」を取りまとめた。					
改善の必要性	今後の施策実施に当たり、方法等に改善の必要はあるか。 (凡例) A 必要なし B 当面必要なし C 必要あり D 大いに必要あり							
	自己評価	部長評価	主な理由					
	B	B	令和5年度の方針決定に向け、学校運営協議会との意見交換や市民意見の聴取等、必要なプロセスを確実に実施していく。					
施策の総合評価			凡例 A：計画以上 B：計画通り C：少し遅れた D：大きく遅れた					
目標達成状況 (自己評価)	評価	評価に関する意見						
	B	令和4年度は、令和4年3月に文部科学省から「新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方について」が公表されたことを踏まえ、「基本的考え方」「施設機能別の基本スタイル」「複合化への対応」について本市の基本スタイルの骨子を取りまとめることができた。						
点検・評価会議の評価	評価	評価に関する意見						
	B	進捗状況としては順調に推移していると評価できる。複合施設として活用される際のイメージを持てるのが、本取組の重要なポイントであると考えている。また、施設の実態把握と、学校関係者や地域に対して意見聴取を行い、未来の教育施設の整備に向け、計画的な改修・整備を進めていく必要がある。						
教育長・教育委員の評価	評価	評価に関する意見						
	B	学校を取り巻く状況が刻々と変化しており、いろいろな事を念頭においた対応が求められている。計画立案に際しても、適切で柔軟に立案されていることは評価に値する。実施の際にも同様の対応を期待する。						

令和5年度（4年度事業） 点検・評価シート

主管課名	生涯学習課
教育 プランの 位置付け	4-1(1)

No.13	施策名	地域コミュニティの活動拠点としての公民館事業の充実
施策の概要	目的	市民一人ひとりが豊かな人生を送ることができるよう、生涯にわたり学習し、その成果を生かすことができる社会の実現を図るため、生涯学習活動やコミュニティ活動の拠点である公民館事業の充実を図る。
	今後の方向性	各公民館が連携し、地域間の交流を活性化させ、地域コミュニティづくりをサポートするとともに、市民一人ひとりが得た学びを地域に還元する機会の拡充、仕組みづくりに取り組む。
	主な取組	①市民提案型事業の充実 ②公民館協働事業の充実 ③地域協働事業の充実
施策の進捗状況	取組内容	①市民提案型事業の充実 ②公民館協働事業の充実 ③地域協働事業の充実
	R4事業内容	各公民館において、新型コロナウイルス対策を講じた中、地域住民等の協力のもと、地域資源の活用事業、世代間交流事業、公民館同士の協働連携事業などをはじめ、可能な限り事業を実施することに努めた。また、新規事業として、生涯学習推進計画にある高齢者向けのスマートフォン講座を実施し、デジタルデバインド（情報格差）の解消に努めた。
	R5事業予定	新型コロナウイルスの収束が見えてきた中で、コロナ禍以前の活動ができるよう講座等の充実につなげ、引き続き多様な学びの機会の充実に努めていく。
	取組内容	
	R4事業内容	
	R5事業予定	
	取組内容	
	R4事業内容	
	R5事業予定	
	課題及び工夫・改善事項	令和4年度は新型コロナウイルス対策が緩和していく中で自主事業を実施した。定員制限の緩和により、参加者数の増となったが、コロナ禍前の水準には達しなかった。また、不特定多数が参加する公民館まつりについても、食事場所の確保などの制限を設けたことから、飲食の提供ができない公民館もあった。しかし、利用団体の発表や展示などは実施し、利用団体の意欲向上につなげることができた。

施策の目標	年度		令和2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
	指標名	目標値	目標現状値(R1)	-	-	目標中間値	-	目標値
		実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
公民館自主事業参加者数	49,164人	-	-	57,500人	-	58,000人		
	13,864人	12,512人	25,053人					
施策の評価項目								
成果に対する評価	施策の目標値に対して、期待した成果を達成したか。 (凡例) A 目標値以上 B 目標値を達成 C 目標値をおおむね(70%)達成 D 目標を未達成							
	自己評価	部長評価	主な理由					
	D	D	新型コロナウイルス対策を緩和していきながら、事業を開催した。参加者数は目標値に達していなかったが、公民館まつりの開催等により、令和3年度よりも増加し、事業数も増となった。					
取組に対する評価	施策の取組内容は、充実したものであったか。 (凡例) A 非常に充実していた B 充実していた C あまり充実していなかった D 充実していなかった							
	自己評価	部長評価	主な理由					
	B	B	公民館まつりは飲食以外は、ほぼ通常開催となり、実施を予定していた全ての公民館で開催することができた。オープニング時に公民館近隣の幼稚園やこども園の協力により、園児の発表の場を設けることができ、アフターコロナにつながるような取組ができた。					
改善の必要性	今後の施策実施に当たり、方法等に改善の必要はあるか。 (凡例) A 必要なし B 当面必要なし C 必要あり D 大いに必要あり							
	自己評価	部長評価	主な理由					
	B	B	アフターコロナを見据えた中で、市民が安心して学習できるよう取り組むことができたことから、今後も引き続き、公民館事業に取り組んでいきたい。					
施策の総合評価			凡例 A：計画以上 B：計画通り C：少し遅れた D：大きく遅れた					
目標達成状況 (自己評価)	評価	評価に関する意見						
	B	新型コロナウイルスについては、利用者の協力と職員の対応によって、公民館ではクラスターが発生しなかった。アフターコロナを見据えた中で、各公民館で自主事業の取組について、工夫改善を図って実施してきており、公民館まつりの内容も次年度につなげられるような取組とすることができたことから、計画どおりとして評価した。						
点検・評価会議の評価	評価	評価に関する意見						
	B	アフターコロナの中で、公民館まつりを含む公民館事業の開催に向けて工夫したことは評価できる。今後は、子どもたちを巻き込んだ公民館自主事業の企画を望みたい。						
教育長・教育委員の評価	評価	評価に関する意見						
	B	コロナ禍で、全ての事業を通常どおりに開催できなかったが、地域に身近な拠点である公民館において、公民館まつりや自主事業等の開催を通じて、利用者が「楽しみ」や「喜び」を感じることができたのではないと思う。 今後も、市民の誰もが、「いつでも、どこでも、だれでも、なんでも」学ぶことができ、生涯にわたり生きがいを持ち、豊かで幸せな人生を送ることができる事業展開をお願いしたい。						

令和5年度（4年度事業） 点検・評価シート

主管課名	生涯学習課 図書館
教育 プランの 位置付け	4-2(1)

No.14	施策名	魅力ある地域学習の推進【重点施策】
施策の概要	目的	市民の生涯学習活動を支援するため、秦野の自然、歴史、文化、産業などの地域資源をはじめ現代課題などの地域学習の機会を提供する。 また、地域を共有する東海大学の資源を生かした学習機会を提供する。
	今後の方向性	あらゆる市民が満足できる学習を、いつでもどこでも自由に得られ、身につけた知識や教養、人とのつながりなど、その成果を地域に生かすことが住みよい地域づくりにつながるよう、多様な講座等を実施する。
	主な取組	①はだの生涯学習講座の充実 ②たけのこ学級の推進 ③広畑ふれあい塾の支援 ④報徳仕法啓発事業の充実 ⑤かみ放課後子ども教室の推進 ⑥夕暮祭短歌大会及び夕暮記念こども短歌大会の開催 ⑦市民大学の開催
施策の進捗状況	取組内容	①はだの生涯学習講座・家庭教育支援の充実
	R4事業内容	地域学習として様々な分野における現代的・社会的・公共的課題に対応した講座（はだの生涯学習講座）や、家庭教育支援に関する講座を年間を通して開催し、市民の学習意欲の向上と多様な学習機会の提供を図った。
	R5事業予定	はだの生涯学習講座では、市民ニーズを汲み取り、シニア世代を対象する「終活」をテーマとした講座を連続的に開催する。家庭教育に関する事業においては、事業の充実に向け、他課と連携し、市民ニーズに沿った事業を展開していく。
	取組内容	④報徳仕法啓発事業の充実
	R4事業内容	第27回全国報徳サミット相馬市大会（福島県）は、「報徳思想にのっとり共に英知を出し合うひとづくり・まちづくり」をテーマとして、新型コロナウイルスが拡大する新しい時代を乗り切る英知を探求し、共有することを目的に開催され、秦野市民も市民ツアーとして参加した。特に、報徳仕法に基づく東日本大震災からの復興の取組、報徳仕法を精神を生かしたまちづくり・地域づくりについて学ぶことができた。
	R5事業予定	第28回全国報徳サミット御殿場市大会（静岡県）は、「希望の未来の実現に向けたひとづくり・まちづくり」をテーマとして、幅広い視点から意見交換を行うことで、希望の未来の実現に向けた、これからの持続可能な人づくり及びまちづくりを報徳仕法から学ぶことを目的に開催される。
	取組内容	⑥夕暮祭短歌大会及び夕暮記念こども短歌大会の開催
	R4事業内容	郷土の生んだ歌人・前田夕暮の功績を称え、短歌に親しむとともに夕暮についての理解を深める機会として第35回夕暮祭短歌大会及び第36回夕暮記念こども短歌大会を開催した。夕暮祭短歌大会には国内外から766首、また、こども短歌大会には市内在住の小・中学生から1,963首の応募があった。
	R5事業予定	本年は、前田夕暮生誕140年の記念の年であることから、生誕140周年記念の特別賞の設置や「学校教育と社会教育の協働」という視点で学校への出前事業を行うなど、より一層の作品応募を目指し夕暮祭短歌大会及び夕暮記念こども短歌大会を開催する。



	取組内容	⑦市民大学の開催
	R4事業内容	市民文化の向上を目指し、生涯学習の機会を提供するため、東海大学との提携事業により同大学の教授等を講師とした専門的な講座を開催した。全5回の講義で、テーマは「治承・寿永の内乱と鎌倉幕府の成立－『源平の争乱』の実態と意義を考える－」と「萬葉集の世界」。延べ280人が受講した。
	R5事業予定	市民が自ら教養等を高める生涯学習の機会として専門性の高い内容の講義を提供し、市民の生涯学習活動を支援するため、市民大学を継続実施する。令和5年度は前田夕暮関連ほか、アンケート結果を踏まえるなどし、多様な講義テーマを企画する。

課題及び 工夫・改善事項	【はだの生涯学習講座】 はだの生涯学習講座では、当日来場できなかった方でも、後日講座を受講できるよう、2回の講座において、動画撮影を行い、市公式YouTubeはだのモーピックへ掲載するなど、多様化する学習ニーズに合わせた学習機会の提供ができた。
	【報徳仕法啓発事業】 令和4年度については、東日本大震災の被災地である福島県相馬市で開催されたサミットに、社会教育委員や市民らが参加し、報徳仕法を学ぶことができた。

施策の 目標	年度	令和 2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	
	指標名	目標値 実績値	目標現状値 (R1)	-	-	目標中間値	-	目標値
			実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
はだの生涯学習講座等の実施回数		7回	-	-	10回	-	10回	
市民大学受講者アンケートによる受講者満足度		3回	8回	10回				
		-	-	-	80%	-	90%	
		61.76%	90.24%	87.50%				

施策の評価項目

成果に 対する 評価	施策の目標値に対して、期待した成果を達成したか。 (凡例) A 目標値以上 B 目標値を達成 C 目標値をおおむね(70%)達成 D 目標を未達成		
	自己評価	部長評価	主な理由
	B	B	【生涯学習課】 はだの生涯学習講座では、計画どおり年10回開催できた。 【図書館】 市民大学によるアンケート結果による受講者満足度が一定程度を満たしていたため。

取組に 対する 評価	施策の取組内容は、充実したものであったか。 (凡例) A 非常に充実していた B 充実していた C あまり充実していなかった D 充実していなかった		
	自己評価	部長評価	主な理由
	B	B	【生涯学習課】 学習環境が多様化する中で、いつでも、どこでも学習が可能となる「動画配信」を実施し、新たな学習機会を提供することができた。 【図書館】 予定していた回数を開催することで、市民の学習機会を確保できた。

改善の 必要性	今後の施策実施に当たり、方法等に改善の必要はあるか。 (凡例) A 必要なし B 当面必要なし C 必要あり D 大いに必要あり	
	自己評価	部長評価
	B	B
		主な理由
		<p>【生涯学習課】 講座参加者の半数以上が高齢者で、対面での受講を希望されることもあり、また、オンライン開催とした場合、デジタルデバイド（情報格差）問題も想定されるため、幅広い世代の参加を見据えて、学習形態を選択できるように動画配信率を向上させる必要がある。</p> <p>【図書館】 市民大学を引き続き開催してほしいとの声が多いため、これまでと同様に、テーマや日程等を工夫・改善しながら開催する。</p>
施策の総合評価		凡例
		A：計画以上 B：計画通り C：少し遅れた D：大きく遅れた
目標達成状況 (自己評価)	評価	評価に関する意見
	B	<p>【生涯学習課】 年間計画どおり年10回講座を開催することができたことに加え、初の学習形態である動画配信での学習機会を創出することができた。 また、講座の種類についても、引き続き地域資源を活用し、市民が幅広く学ぶことができるよう、より多様な分野の講座を提供するとともに、アンケートを通じて、開催形態や講座テーマなど市民ニーズの把握に努めていく。</p> <p>【図書館】 新型コロナウイルス対策の緩和等により、大学の教授等である講師も多忙になってきており、事業実施の日程調整は難しかったが、市民の健康と学習機会の提供のバランスを考慮しつつ、当初の予定どおり実施することができた。</p>
点検・評価会議の 評価	評価	評価に関する意見
	A	はだの生涯学習講座が計画通りに実施できたことや動画配信による学習機会の創出は、社会情勢としてのニーズに答えることができた新たな実績であると考え。今後は、全ての講座をいつでも見られるように市のホームページに掲載されるとよい。
教育長・教育委員 の評価	評価	評価に関する意見
	A	<p>【生涯学習課】 はだの生涯学習講座のチラシは、見た人が参加してみたいという気持ちになるよう、大変工夫されているとともに、幅広い世代を対象として講座を開催しているところが評価できる。ホームページ等への資料・動画の掲載は、講師の承諾を経なければならないなどの制限もあるが、参加できなかった人に対して可能な範囲での対応をしていただきたい。 また、報徳仕法啓発事業は、多くの人が報徳仕法を知ることができるよう、引き続き、啓発に努めてほしい。</p> <p>【図書館】 それぞれの短歌大会は、だいぶ根付いていることもあり、安定的に応募があり、前田夕暮を広める努力が実っていると感じている。本年の生誕140周年記念事業でより一層知ってもらえる努力をお願いしたい。 また、市民大学については、アンケート結果から高い満足度を維持しており、市民が興味を持つ企画・内容であったと考えている。今後も、多くの参加者が見込めるよう内容や受講体制を工夫するなどの努力を継続してもらいたい。</p>



令和5年度（4年度事業） 点検・評価シート

主管課名	図書館
教育 プランの 位置付け	4-4(1)

No.15	施策名	市民の生涯学習を支える読書活動への支援
施策の概要	目的	市民一人ひとりが読書に親しみ、本や情報を活用した学びを支える。 また、身近でだれもが利用しやすい図書館サービスの充実を図る。
	今後の方向性	市民それぞれの学ぶ意欲や知る楽しみに応え、本と出会う機会を提供するとともに、学びの楽しさを伝えることに努める。 また、家庭、地域、学校などの関係機関と連携・協力しながら、読書のきっかけや、本に親しむ時代の変化に適応した仕組みづくりに取り組む。
	主な取組	①図書館資料の充実 ②レファレンスサービスの充実 ③障害者、高齢者等へのサービスの充実
施策の進捗状況	取組内容	①図書館資料の充実
	R4事業内容	利用者のニーズを捉え、求められる情報を提供できるよう、新刊、時事等に基づく資料選定を行うとともに、地域の皆さんとともに作る図書館の取組として、雑誌スポンサー制度を導入した。また、電子図書館を導入し、利用者の利便性の向上を図った。
	R5事業予定	利用者のニーズを捉え、求められる情報を提供できるよう、新刊、時事等に基づく資料選定を行うとともに、地域の皆さんとともに作る図書館の取組として、雑誌スポンサー制度を継続実施する。また、電子図書館の周知・利用促進を図る。
	取組内容	②レファレンスサービスの充実
	R4事業内容	利用者の利便性向上のため、レファレンスサービス体制を整備するとともに、幅広い利用者ニーズに対応できるよう、リクエストサービスの実施や相互貸借サービスの活用を行った。
	R5事業予定	利用者の利便性向上のため、レファレンスサービス体制を整備するとともに、幅広い利用者ニーズに対応できるよう、リクエストサービスの実施や相互貸借サービスの活用を行う。
	取組内容	③障害者、高齢者等へのサービスの充実
	R4事業内容	録音図書や点字資料、拡大図書等の収集、整理を行うとともに、視覚障害者への郵送による資料の貸出しを行った。また、電子図書館を導入し、視覚障害のある利用者の利便性の向上を図った。
	R5事業予定	録音図書や点字資料、拡大図書等の収集、整理を行うとともに、障害者や高齢者等の福祉に係る各ボランティア団体との協力体制の構築を図る。また、電子図書館の周知・利用促進を図る。
課題及び工夫・改善事項	社会情勢の変化により、市民ニーズの多様化、高度化が進み、必要な情報の範囲が広がっている。利用者の生涯学習活動を支える地域の情報拠点としての機能を充実させるために、これまでの取組に加え、庁内他課等と連携した福祉や防災関連の資料展示企画を拡充するとともに利用者ニーズを捉えた資料収集を行いながら、経年劣化や情報の内容が古い資料については適切な除籍を実施し、書庫や書籍の適正管理に努めた。また、令和4年10月に電子図書館を導入し、利用者のライフスタイルに合った読書環境の充実を図った。	

施策の目標	年度	令和2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	
	指標名	目標値 実績値	目標現状値 (R1)	-	-	目標中間値	-	目標値
			実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
図書年間購入数		9,134冊	-	-	9,200冊	-	9,300冊	
		7,523冊	6,700冊	6,970冊				
予約受付件数		114,418件	-	-	115,000件	-	115,500件	
		109,662件	121,115件	119,053件				
施策の評価項目								
成果に対する評価	施策の目標値に対して、期待した成果を達成したか。 (凡例) A 目標値以上 B 目標値を達成 C 目標値をおおむね(70%)達成 D 目標を未達成							
	自己評価	部長評価	主な理由					
	B	B	図書の年間購入数は、前年度と比較し270冊増加したが、物価上昇の影響があり、目標冊数との乖離は生じている、しかし、予約受付件数は昨年度と比較し微減したものの、目標値を上回る水準を維持する結果となった。					
取組に対する評価	施策の取組内容は、充実したものであったか。 (凡例) A 非常に充実していた B 充実していた C あまり充実していなかった D 充実していなかった							
	自己評価	部長評価	主な理由					
	B	B	地域の企業等の協力を得た雑誌スポンサー制度の開始や市民の多様な要求に応えるための蔵書の選定や購入、また、他市等の図書館で保有する資料を活用するなどしてニーズの達成に取り組んでいる。					
改善の必要性	今後の施策実施に当たり、方法等に改善の必要はあるか。 (凡例) A 必要なし B 当面必要なし C 必要あり D 大いに必要あり							
	自己評価	部長評価	主な理由					
	B	B	超高齢化やICT化などの進展に伴い、図書館利用の減少や読書離れが進んでいる状況下で、誰もが利用したくなる図書館を目指し、常に選書方法の工夫・改善に努める必要がある。					
施策の総合評価		凡例 A：計画以上 B：計画通り C：少し遅れた D：大きく遅れた						
目標達成状況 (自己評価)	評価	評価に関する意見						
	B	物価上昇に伴う本の単価上昇などにより、目標値に対する購入冊数の実績に開きが生じているが、市民の生涯学習活動を支えるために必要な資料を、購入だけでなく寄贈等の様々な方法で収集し、蔵書の充実と利用者ニーズの充足を図ることができた。						
点検・評価会議の評価	評価	評価に関する意見						
	B	電子図書館の導入は大きな挑戦であったと考える。また、地域企業による雑誌スポンサー制度の導入は、新たな取組であるため評価できる。						
教育長・教育委員の評価	評価	評価に関する意見						
	B	電子図書館の導入は、これからの時代に即した取組であり評価できる。子どもだけでなく大人の読書離れも進んでいると感じているので、読書人口を増やすために様々な取組を試みてもらいたい。また、より多くの図書を利用者に提供できるよう、雑誌スポンサー制度のような取組を有効に活用してもらいたい。						



令和5年度（4年度事業） 点検・評価シート

主管課名	図書館
教育プランの位置付け	4-5(1)

No.16	施策名	子ども読書活動の推進【重点施策】
施策の概要	目的	読書は、子どもの成長にとって重要なものであるため、子どもが、本に親しみ、読書の楽しさを体感できるような機会を提供し、子どもの読書活動の推進を図る。
	今後の方向性	子どもがそれぞれの状況に応じて、本に親しみ、読書を行えるように読書環境の整備に努める。
	主な取組	①読書啓発事業の推進 ②ブックスタート事業の推進 ③学校等への支援
施策の進捗状況	取組内容	①読書啓発事業の推進
	R4事業内容	子どもの読書活動推進のため、読書通帳の配布や読書週間にあわせたイベント、講座・講演会開催のほか、企画展示やおはなし会等を実施した。
	R5事業予定	子どもの読書活動推進のため、読書通帳の配布や読書週間にあわせたイベント、講座・講演会開催のほか、企画展示やおはなし会等を実施する。
	取組内容	②ブックスタート事業の推進
	R4事業内容	本を通じた親子の心の通い合いを目的に、7か月児健康診査に訪れた親子に絵本を配布し、コロナ禍により実施を見合わせている、絵本の読み聞かせの再開に向けて担当課と調整を図る。
	R5事業予定	令和5年度からは、乳幼児健診所管課において7か月児健康診査（保健福祉センターでの集団健診方式）が8～10か月児健康診査（医療機関での個別健診方式）へ移行されたことに伴い、ブックスタート事業の実施機会を4か月児健康診査（集団健診方式）で実施することになった。対象月齢が4か月児になり、健診の流れも7か月児健康診査と異なることから、読み聞かせを再開できる場所や時期などについて乳幼児健診所管課と調整を図る。
	取組内容	③学校等への支援
	R4事業内容	教育現場における図書館資料の有効活用や利用促進のため、団体貸出を行うとともに、図書館見学や体験学習の受入を行った。
	R5事業予定	教育現場における、図書館資料の有効活用や利用促進のため団体貸出を行う。また、図書館見学や体験学習の受入を行うとともに、令和4年10月に導入した電子図書館についてモデル校による利活用など学校との連携を図る。
課題及び工夫・改善事項	子どもたちの読書意欲の芽生えや意欲向上のために読書の楽しさを伝えるとともに、図書館利用のきっかけづくりをどのように展開していくかを検討・工夫する必要がある。様々なイベントを通じて、蔵書や読書に興味を持てるような仕組みづくりを検討するとともに、図書館への来館や各種サービスの利用を促すきっかけとなるように、様々な周知手法の活用を図っていく。	

施策の目標	年度	令和2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	
	指標名	目標値 実績値	目標現状値(R1)	-	-	目標中間値	-	目標値
			実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
読書関連行事の開催数		-	-	-	7回	-	7回	
ブックスタートでの絵本配布率		99.3%	-	-	100%	-	100%	
			99.15%	97.20%				
施策の評価項目								
成果に対する評価	施策の目標値に対して、期待した成果を達成したか。 (凡例) A 目標値以上 B 目標値を達成 C 目標値をおおむね(70%)達成 D 目標を未達成							
	自己評価	部長評価	主な理由					
	B	B	ブックスタートでの絵本配布率が概ね目標を達成したことや、新型コロナウイルス対策の緩和などにより、昨年度と比べイベント等を開催できたため。					
取組に対する評価	施策の取組内容は、充実したものであったか。 (凡例) A 非常に充実していた B 充実していた C あまり充実していなかった D 充実していなかった							
	自己評価	部長評価	主な理由					
	B	B	既存のイベント等を実施できたほか、新たなイベント等も開催することができたため。					
改善の必要性	今後の施策実施に当たり、方法等に改善の必要はあるか。 (凡例) A 必要なし B 当面必要なし C 必要あり D 大いに必要あり							
	自己評価	部長評価	主な理由					
	B	B	ブックスタート事業の目的達成のため、絵本配布の継続と読み聞かせの再開に向けて、乳幼児健診所管課等との調整を行う必要がある。また、各種事業の工夫改善や学校等との連携により子どもと本を繋ぐ機会づくりにつなげたい。					
施策の総合評価		凡例 A：計画以上 B：計画通り C：少し遅れた D：大きく遅れた						
目標達成状況 (自己評価)	評価	評価に関する意見						
	B	ブックスタートによる絵本配布率を高水準で保っているほか、読書につながる事業等の実施と並行して、図書館オリジナルキャラクターの作成やキャラクター選挙を実施するなどして、子どもたちの好奇心を高める取組を実施している。						
点検・評価会議の評価	評価	評価に関する意見						
	B	数値としては計画通りの成果であるが、子どもの読書離れの原因の一つに挙げられる”絵本から本へ”について、図書館として支援をしていただきたい。また、非認知能力の向上という観点からも、子どもの本の質について議論する機会が必要かと考える。また、読み聞かせを含めた読書活動の大切さの周知や、子ども自身が読書をするにつなげるための保護者への支援についても考えていくとよい。						
教育長・教育委員の評価	評価	評価に関する意見						
	B	各種の講座や講演会の開催、ブックスタート事業の実績から読書推進への取組は評価できる。一方で、周囲の大人の読書習慣が子どもの読書につながることから、大人に対する読書の推進も視野に入れた取組を検討してもらいたい。						

令和5年度（4年度事業） 点検・評価シート

主管課名	生涯学習課
教育 プランの 位置付け	4-6(1)

No.17	施策名	施設長寿命化の推進（公民館）
施策の概要	目的	市民が、安全・安心で快適な施設として利用できるよう、施設の適切な改修を行うことにより、既存施設の長寿命化による有効活用を図り、快適な学習環境づくりと利用者の利便性向上に努める。
	今後の方向性	公共施設再配置計画及び公共施設保全計画との共有を図りながら、施設・設備の適正な維持管理及び法定点検等についても適切に実施する。 また、多くの団体が利用できるよう、利用環境を整える。 さらに、幅広い講座を取り入れることによって、利用者の増加を図る。
	主な取組	①公民館の計画的改修 ②公民館の計画的更新
施策の進捗状況	取組内容	①公民館の計画的改修 ②公民館の計画的更新
	R4事業内容	公民館トイレ改修工事（本町、渋沢、鶴巻、南が丘、堀川）、本町公民館屋上防水工事の5館、2件の改修及び更新工事を実施した。 このうち、トイレ改修工事については、本町は、和式便座、みんなのトイレを含む洋式便座を温水洗浄暖房便座に変更した。その他の館については、みんなのトイレを含む洋式便座を温水洗浄暖房便座に変更した。
	R5事業予定	公民館トイレ改修工事（渋沢、鶴巻、南が丘、堀川）、公民館館内LED工事（本町、南が丘、東、北、堀川、渋沢、上、鶴巻）、上公民館受水槽更新工事、鶴巻公民館ガラス屋根改修工事の8館、4件の改修及び更新工事を実施予定
	取組内容	/
	R4事業内容	
	R5事業予定	
取組内容	/	
R4事業内容		
R5事業予定		
課題及び工夫・改善事項	公共施設保全計画に基づき、計画的に改修及び更新工事を実施することは、利用者の安全・安心な利用につながるものであるため、設備の更新時期と財政負担について、検討していく必要がある。また、関係各課等と建築後の耐用年数に近づいている公民館において、引き続き建替え等の検討を進めていく。	



施策の目標	年度	令和2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	
	指標名	目標値 実績値	目標現状値 (R1)	-	-	目標中間値	-	目標値
			実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
公民館利用者数 (年間)		431,494人	-	-	516,000人	-	517,000人	
公民館施設・重要設備 更新計画による工事計 画件数		206,229人	283,927人	339,191人				
		5件	-	-	5件	-	5件	
		3件	4件	2件				
施策の評価項目								
成果に対する 評価	施策の目標値に対して、期待した成果を達成したか。 (凡例) A 目標値以上 B 目標値を達成 C 目標値をおおむね(70%)達成 D 目標を未達成							
	自己評価	部長評価	主な理由					
	D	D	利用者数については、新型コロナウイルスの影響もあったが、目標値の約66%であった。 また、工事件数は2件と、同じく目標値を未達成となったが、更新時期となった防水工事と利用者が使用する機会が多いトイレの改修工事を5館(本町、渋沢、南が丘、鶴巻、堀川)で実施することができた。					
取組に対する 評価	施策の取組内容は、充実したものであったか。 (凡例) A 非常に充実していた B 充実していた C あまり充実していなかった D 充実していなかった							
	自己評価	部長評価	主な理由					
	B	B	屋上防水については、雨漏りだけではなく、躯体への影響も出てくることから改修することで、利用者の安全・安心な利用につながる事ができた。					
改善の 必要性	今後の施策実施に当たり、方法等に改善の必要はあるか。 (凡例) A 必要なし B 当面必要なし C 必要あり D 大いに必要あり							
	自己評価	部長評価	主な理由					
	B	B	公共施設保全計画に記載している設備以外の備品等についても、耐用年数など考慮し、利用者への影響が出ないように改修していく必要がある。					
施策の総合評価		凡例 A：計画以上 B：計画通り C：少し遅れた D：大きく遅れた						
目標達成状況 (自己評価)	評価	評価に関する意見						
	B	公共施設保全計画による計画的な工事を実施するとともに、利用者から意見等があるトイレの改修工事を実施し、利用者の利用環境の向上が図れた。						
点検・評価会議の 評価	評価	評価に関する意見						
	B	限られた予算ではあるが、利用者の安全を第一に考えた改修工事等を進めてほしい。						
教育長・教育委員 の評価	評価	評価に関する意見						
	B	防水工事やトイレの改修等、計画的で効率的に取り組まれている。点検・評価会議の評価にも記載のあるとおり、引き続き安全・安心な施設を目指し、優先順位をしっかりと検討して対応していく必要がある。						

令和5年度（4年度事業） 点検・評価シート

主管課名	図書館
教育 プランの 位置付け	4-6(1)

No.18	施策名	施設長寿命化の推進（図書館）
施策の概要	目的	市民が、安全・安心で快適な施設として利用できるよう、施設の適切な改修を行うことにより、既存施設の長寿命化による有効活用を図り、快適な学習環境づくりと利用者の利便性向上に努める。
	今後の方向性	公共施設再配置計画及び公共施設保全計画との共有を図りながら、施設・設備の適正な維持管理及び法定点検等についても適切に実施する。 また、多くの団体が利用できるよう、利用環境を整える。 さらに、幅広い講座を取り入れることによって、利用者の増加を図る。
	主な取組	①図書館の計画的改修
施策の進捗状況	取組内容	①図書館の計画的改修
	R4事業内容	計画的改修として、貴重な郷土資料保護のため、展示用ガラスケースに紫外線カットフィルムを貼付するほか、新型感染症対策として、利用者用トイレ水栓をセンサー式に改修した。また、施設・設備等を適正に管理するため、各種法定点検等の実施(建築物、電気設備、消防設備、受水槽、昇降機など)や読書環境維持のための点検等を実施(空調設備、清掃、害虫防除、警備など)した。
	R5事業予定	計画的改修として、空調の熱源となる冷温水を作る冷温水循環装置の一部を修繕するほか、老朽化する給水設備の給水弁の修繕や令和4年度から運用を開始したWi-Fiの供給エリアを拡充するためLAN設備を改修する。また、施設・設備等を適正に管理するため、各種法定点検等の実施(建築物、電気設備、消防設備、受水槽、昇降機など)や読書環境維持のための点検等を実施(空調設備、清掃、害虫防除、警備など)する。
	取組内容	/
	R4事業内容	
	R5事業予定	
取組内容	/	
R4事業内容		
R5事業予定		
課題及び工夫・改善事項	図書館が昭和60年（1985年）に竣工してから37年が経過しており、施設等に経年劣化が見られ、また、使用機器類の生産が終了しているなど、維持管理が困難な状況になってきている。そのため、施設・設備の不具合個所などを早期発見し、少額な修繕や自主修繕で対応できるよう状況の把握に努めるとともに、市有施設全体の将来構想や維持保全をまとめた公共施設再配置計画や公共施設保全計画の計画・方針を踏まえ、計画的な改修工事等を行い、図書館の適切な読書環境の整備に努めている。	

施策の目標	年度	令和2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	
	指標名	目標値 実績値	目標現状値 (R1)	-	-	目標中間値	-	目標値
			実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
図書館入館者数 (年間)		219,888人	-	-	220,000人	-	221,000人	
図書館施設・設備の長 寿命化計画に基づく改 修工事		-	-	-	計画的な 改修	-	計画的な 改修	
		予定箇所の 工事等実施	予定箇所の 工事等実施	予定箇所の 工事等実施				
施策の評価項目								
成果に 対する 評価	施策の目標値に対して、期待した成果を達成したか。 (凡例) A 目標値以上 B 目標値を達成 C 目標値をおおむね(70%)達成 D 目標を未達成							
	自己評価	部長評価	主な理由					
	B	B	コロナ禍の影響もあり令和4年度の来館者数は目標を下回ったが、令和4年度実績も前年度と同程度で推移し、令和2年度目標値に対して90%を超えてきたため。					
取組に 対する 評価	施策の取組内容は、充実したものであったか。 (凡例) A 非常に充実していた B 充実していた C あまり充実していなかった D 充実していなかった							
	自己評価	部長評価	主な理由					
	B	B	予定していた修繕や維持保全を目的とした緊急修繕・点検・清掃を確実に実施した。					
改善の 必要性	今後の施策実施に当たり、方法等に改善の必要はあるか。 (凡例) A 必要なし B 当面必要なし C 必要あり D 大いに必要あり							
	自己評価	部長評価	主な理由					
	B	B	現状の取組みは、施設の維持管理上概ね適正であるが、規模の大きな改修工事の実施については、関係部署との調整を要する。					
施策の総合評価		凡例 A：計画以上 B：計画通り C：少し遅れた D：大きく遅れた						
目標達成状況 (自己評価)	評価	評価に関する意見						
	B	図書館施設・設備については、建築後37年が経過し、老朽化による設備等の不具合のリスクが増す中で、利用者が安全・安心かつ快適に利用でき、また、貴重な資料を適切に保存できる環境の維持を図ることができた。						
点検・評価会議の 評価	評価	評価に関する意見						
	B	適切かつ十分に取組まれていると考えるが、大人から子どもまでの多くの人々が、快適に図書館を利用することができるよう、今後も必要に応じて改修を行っていただきたい。						
教育長・教育委員 の評価	評価	評価に関する意見						
	B	安全・安心な施設として、予定していた改修事業等を確実に実施できている。施策の目標となる入館者数については、ハード面だけでなくソフト面での充実も重要となるため、引き続き工夫を期待したい。						

令和5年度（4年度事業） 点検・評価シート

主管課名	生涯学習課
教育 プランの 位置付け	5-1(1)

No.19	施策名	歴史資源等の保存・管理の推進
施策の概要	目的	貴重な文化財や歴史文化資料を収集、整理、保存し、利用者に提供できるように整備し、次の世代に引き継いでいく。
	今後の方向性	地域に所在する文化財の計画的な管理活用を図る。 また、郷土資料の収集、整備を継続し、利用しやすい環境整備を図る。 さらに、歴史文化資料の有効的な利活用のために、デジタル化の作業などに取り組む。
	主な取組	①歴史資源の収集・保存 ②収蔵資料の管理・活用 ③地区別管理・活用計画作成の検討
施策の進捗状況	取組内容	①歴史資源の収集・保存
	R4事業内容	歴史資源の適正保存・管理のため、指定重要文化財の所有者に対し、文化財保存事業補助金を交付した。 真静院石造六地藏 1件
	R5事業予定	歴史資源の適正保存・管理のため、指定重要文化財の所有者に対し、文化財保存事業補助金を交付していく。 宝蓮寺、金剛寺等 4件を予定
	取組内容	①歴史資源の収集・保存
	R4事業内容	市史資料の所有者に対し現況調査を実施し、状況把握を行うとともに、保存と次世代への継承を促すための一環として、企画展開催に当たり、個人所蔵の資料を借用し、活用を図った。
	R5事業予定	引き続き、歴史資源の状況把握に努めるとともに、保存と次世代への継承を促すための一環として、企画展開催に当たっては、個人所蔵資料の借用など活用を図っていく。
	取組内容	②収蔵資料の管理・活用
	R4事業内容	収蔵資料をデジタル化して管理活用するため、横野近世文書のデジタル化委託業務を行った（10年計画の2年目）。
	R5事業予定	引続き横野近世文書のデジタル化委託業務を行う（10年計画の3年目）。
	取組内容	
	R4事業内容	
	R5事業予定	
課題及び工夫・改善事項	<p>収蔵庫について、新たな場所の確保や学校等の利用可能性などを調整してきたが、現時点で利用可能な施設を確保できる状況にない。</p> <p>今後については、新たな場所の確保など、収蔵庫の確保についても検討し、また、収蔵機能だけでなく児童・生徒の見学等についても配慮していく必要がある。</p>	



施策の目標	年度	令和2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	
	指標名	目標値 実績値	目標現状値(R1)	-	-	目標中間値	-	目標値
			実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
未指定・未登録の文化財の調査件数		2件	-	-	5件	-	5件	
はだの歴史博物館等での活用		2件	3件	5件(継続)				
		写真映像による活用	-	-	デジタル化の推進	-	計画的な改修	
収集した資料の一元管理と活用		写真映像による活用	写真映像による活用	写真映像による活用				
		資料の分野別に収集	-	-	新たな収蔵スペースの検討	-	新たな収蔵スペースの検討	
		資料の分野別に収集	資料の分野別に収集	資料の分野別に収集				
施策の評価項目								
成果に対する評価	施策の目標値に対して、期待した成果を達成したか。 (凡例) A 目標値以上 B 目標値を達成 C 目標値をおおむね(70%)達成 D 目標を未達成							
	自己評価	部長評価	主な理由					
	B	B	資料のデジタル化を進めていることなど、一定の成果はあったが収蔵庫の確保については、更なる検討が必要である。					
取組に対する評価	施策の取組内容は、充実したものであったか。 (凡例) A 非常に充実していた B 充実していた C あまり充実していなかった D 充実していなかった							
	自己評価	部長評価	主な理由					
	B	B	未指定、未登録の文化財の調査や、はだの歴史博物館での活用など充実していたが、収蔵庫の確保等について、更なる検討が必要である。					
改善の必要性	今後の施策実施に当たり、方法等に改善の必要はあるか。 (凡例) A 必要なし B 当面必要なし C 必要あり D 大いに必要あり							
	自己評価	部長評価	主な理由					
	C	C	収蔵庫の確保等について、さらに検討をし、収蔵機能だけでなく児童・生徒をはじめ地域住民等の見学等についても配慮していく必要がある。					
施策の総合評価		凡例 A：計画以上 B：計画通り C：少し遅れた D：大きく遅れた						
目標達成状況 (自己評価)	評価	評価に関する意見						
	B	歴史資源の収集・保存、収蔵資料の管理・活用については、一定の成果が見られたが、収蔵庫の確保等については更なる検討が必要である。						
点検・評価会議の評価	評価	評価に関する意見						
	B	歴史資源等の保存は、次世代へ向けて大切なことである。適切な収蔵施設の確保と公開を今後も努力してほしい。						
教育長・教育委員の評価	評価	評価に関する意見						
	B	秦野は歴史の街でもある。貴重な文化財や歴史文化資料を収集、整理、保存することは、秦野の魅力づくりにもつながる。引き続きデジタル化も含めて、新たな工夫にも期待したい。						

令和5年度（4年度事業） 点検・評価シート

主管課名	生涯学習課
教育プランの位置付け	5-2(1)

No.20	施策名	文化財・歴史資源等の活用の推進【重要施策】
施策の概要	目的	市民の歴史文化に対する理解を深め、郷土に親しむ心を育てていく。
	今後の方向性	はだの歴史博物館を文化財や市の歴史に関する情報発信の拠点として、これまで以上に多様なニーズに応えていく。 また、これまで活用頻度が低かった桜土手古墳公園についても、公園を活用したイベントを実施し、親しまれる場所になるよう努める。
	主な取組	①指定文化財特別公開の充実 ②歴史民俗講座の充実 ③体験型学習の推進 ④総合歴史博物館機能の充実
	取組内容	①指定文化財特別公開の充実
施策の進捗状況	R4事業内容	文化財保護強調週間(11月上旬)に合わせ、県・市指定の重要文化財の特別公開を開催した。はだの歴史博物館、蓑毛大日堂ほか、円通寺、金蔵院にて実施した。また、はだの歴史博物館では、市民ボランティアを活用した紙芝居講座を開催した。
	R5事業予定	文化財保護強調週間(11月上旬)に合わせ、県・市指定の重要文化財の特別公開を開催する。はだの歴史博物館ほか、文化財所有者の協力を得て実施する。
	取組内容	②歴史民俗講座の充実
	R4事業内容	・ミュージアムさくら塾を、当初計画どおり（年6回）開催した。 【内容】①秦野の古道・大山道、②秦野と大山詣り、③吾妻鏡を読む－源実朝暗殺事件を中心に－、④富士山宝永噴火の被害と復興－秦野市域に残された史料を中心に－、⑤秦野の正月行事、⑥秦野市の地形と地震の痕跡－秦野市内の遺跡から見つかった地震跡－ ・青空レクチャーを、当初計画どおり（年3回）開催した。 【内容】①再発見 震生湖、②本町四ツ角の歴史的建造物、③渋沢駅周辺の風景を訪ねて
	R5事業予定	市民の歴史・文化に関わる知識を深めるとともに、博物館の認知度を高めること、及び博物館外における学習機会の場を提供するための歴史専門講座等を次のとおり実施していく。 ・ミュージアムさくら塾 年5回開催予定。 【内容】①縄文時代の土器づくりのムラ、②秦野の盆行事、③震生湖誕生100周年記念講演、④江戸時代の村について、⑤「お金」の歴史について ・青空レクチャー 年3回開催予定。 【内容】①震生湖、②本町四ツ角、③東地区
	取組内容	③体験型学習の推進
	R4事業内容	夏休み中に親子まが玉教室を実施した（7月27日～30日の4日間）。また、公園を活用したクイズラリー「はだの歴史探検～来て・見て・遊んで はだの歴史博物館＆桜土手古墳公園～」を開催した。（7月26日～3月31日）
	R5事業予定	夏休み中のまが玉作り教室に加え、公園を活用したヨガ教室を開催予定

取組内容	④総合的歴史博物館機能の充実
R4事業内容	<p>博物館の企画展示室にて企画展を、当初計画どおり（年8回）開催した。</p> <p>【内容】①石が語る秦野のくらしと祈り、②レンズがとらえた50年前の秦野、③夏。丹沢。山小屋に行ってみました。④5つの目でみた表丹沢、⑤鎌倉時代の秦野、⑥健康万歳！～秦野の医療・衛生のあゆみ～、⑦秦野盆地の外の世界-大根・鶴巻の歴史と文化、⑧10万都市をめざした頃-秦野市と西秦野町の合併60周年にあたって-</p> <p>震生湖誕生100周年記念事業イベントとして写真展「震生湖 あの日あの時」の開催や、NHK大河ドラマ「鎌倉殿の13人」パネル展(横浜放送局主催)を開催した。</p> <p>また、コロナ収束を見据え、花見の時期（3月25日）に、「桜土手古墳公園 お花見フェア2023」を初開催し、キッチンカー及びテント販売で5店舗が出店し、公園活性化と博物館の誘客に努めた。</p>
R5事業予定	市民が文化財に触れることを通して秦野市への愛着を育み、生涯学習施設としての役割を果たすため、博物館展示室において、年8回の企画展を開催していく。

課題及び工夫・改善事項	総合的歴史博物館として、多様な展示、講座を開催し、子どもから大人まで幅広い世代の市民が来館しやすい環境づくりを図る必要がある。また、他分野にわたる企画展を実施するに当たっての資料の収蔵、整理スペースを確保する必要がある。
-------------	--

施策の目標	年度	令和2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	
	指標名	目標値 実績値	目標現状値（R1）	-	-	目標中間値	-	目標値
			実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
指定文化財特別公開の開催	4か所で実施	-	-	4か所で実施	-	4か所で実施	ウォーキング事業	
市内の国登録文化財等を紹介するガイドツアーの実施	年1回	-	-	年2回	-	年3回		
フロアレクチャーや桜土手古墳公園を活用した新事業の実施	年1回	年3回	年3回	年3回				
	-	-	-	1事業	-	2事業		
	-	-	2事業					

施策の評価項目

成果に対する評価	施策の目標値に対して、期待した成果を達成したか。		
	(凡例) A 目標値以上 B 目標値を達成 C 目標値をおおむね(70%)達成 D 目標を未達成		
	自己評価	部長評価	主な理由
	B	B	新型コロナウイルスの感染状況が落ち着いてきたこともあり、企画展示及び事業を計画どおりに実施することができたほか、新たな取組を図ることができた。

取組に対する評価	施策の取組内容は、充実したものであったか。		
	(凡例) A 非常に充実していた B 充実していた C あまり充実していなかった D 充実していなかった		
	自己評価	部長評価	主な理由
	B	B	歴史探検（子ども向けクイズラリー）やお花見フェアなど、新たな取組の実施により、博物館及び公園の活用を図ることができた。

改善の必要性	今後の施策実施に当たり、方法等に改善の必要はあるか。		
	(凡例) A 必要なし B 当面必要なし C 必要あり D 大いに必要あり		
	自己評価	部長評価	主な理由
	B	B	はだの浮世絵ギャラリーと資料の相互貸し出しなどを行っているが、今後はより連携した企画を検討するとともに、その他文化施設（宮永岳彦記念美術館等）との連携を図るなど研究していく必要がある。

施策の総合評価		凡例	
		A：計画以上 B：計画通り C：少し遅れた D：大きく遅れた	
目標達成状況 (自己評価)	評価	評価に関する意見	
	B	令和2年11月のリニューアル以降、以前より博物館来館者数が増加傾向にあることに加え、新型コロナウイルスの感染状況が落ち着いてきたこともあり、企画展示及び事業を計画どおりに実施することができた。	
点検・評価会議の 評価	評価	評価に関する意見	
	B	それぞれの取組について、計画通り実施できたことは評価できる。子どもたちにとっての歴史探索は夏休み中の体験講座と合わせて計画できるとよいと考える。	
教育長・教育委員 の評価	評価	評価に関する意見	
	B	旬をとらえた新たな取組が進んでいると大いに評価したい。点を線にして、面になれば、秦野の魅力づくりに大きく貢献するポテンシャルを秘めているので、引き続きのチャレンジを期待したい。	





## 第4章 学識経験者の総合評価

「教育委員会の点検・評価の学校教育関係に対する総合的な評価」

東海大学 ティーチングクオリフィケーションセンター  
教授 大島 宏

はじめに

地方公共団体における教育行政の組織及び運営の基本を定めた「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」では、教育委員会に対して、その権限に属する事務の管理や執行に関する点検・評価を行うことを義務づけている。これに加えて、同法では、点検・評価に当たって、教育に関する学識経験者の知見を活用するものと定めている。

今回の点検・評価で対象となる令和4年度は、秦野市教育振興基本計画（計画期間：令和3年度～令和7年度）の2年目に当たる。

また、中央教育審議会答申「今後の地方教育行政の在り方について」（平成25年12月13日）における「PDCAサイクルを確立し、実施していくことが新しい教育委員会の中心的な業務となることが考えられる」との指摘は、点検・評価に当たって重要である。これらを踏まえ、本評価では、学校教育に関する基本方針1～3に係る主要施策について、①前回の報告書で示された令和4年度の事業予定と進捗状況、②成果や取組に対する評価や改善の必要性に関する主な理由に注目し、PDCAサイクルという観点から意見を述べることとする。

### 1 基本方針1について

秦野市教育振興基本計画では、「基本方針1 全ての子どもたちの可能性を引き出す新たな学びのスタイルにより、持続可能な社会を創り出す力を育みます」との方針のもと、5つの施策目標と10の施策が設定されている。このうち、今回の点検評価の対象である令和4年度主要施策は、次の4施策である（「新たな学びプロジェクトの展開」は重点施策として位置づけられている）。施策目標と主要施策との関係は次の通りである。

施策目標	主要施策
1. 確かな学力の定着と向上	・新たな学びプロジェクトの展開 【重点施策】

2. 健やかな体の育成	
3. 個に応じたきめ細やかな支援	・インクルーシブ教育の推進
4. 豊かな情操や規範意識、公共の精神を育み、「自分の大切さとともに他の人の大切さを認める」教育の推進	・いじめ・不登校等の対策の推進
5. 好奇心や探求心、豊かな感性を育む幼児教育の充実	・一人ひとりを大切にした特色のある幼児教育の推進

(1) 確かな学力の定着と向上：新たな学びプロジェクトの展開

ア 取組について

「確かな学力の定着と向上」を施策目標とする「新たな学びプロジェクトの展開」では、「学習指導要領で求められている確かな学力の定着に向けて、園小中一貫教育を軸とした教育指導施策を展開し、子どもたちの学ぶ意欲や非認知能力を育み、教育水準の改善・向上を図る」ことを目的として、①園小中一貫教育の推進、②学びの基盤プロジェクトの推進、③新たな学びステップアップ事業の展開、④GIGAスクール構想の推進、⑤情報モラル教育の推進、⑥わくわく読書プランの推進、⑦はだのっ子寺子屋事業の推進の7つを主な取組として設定している。ただし、今回の点検・評価では、①、②、④、⑥、⑦の5つの取組の進捗状況のみが記載されており、③と⑤に関する記載はない。なお、令和3年度を対象とした前回の点検・評価では、①、②、③、④、⑦の5つの取組の進捗状況が記載されていた。

前回と今回の両方に進捗状況の記載がある4つの取組の状況について、前回の点検・評価で示された令和4年度の事業予定を踏まえて確認すると、予定された事業はおおむね実施されていることが確認できる。ただし、今回の点検・評価では、⑦はだのっ子寺子屋事業の推進において、前回の点検・評価で予定された大根中学校区での拡充が確認できない。他方で、前回の点検・評価で予定されていない取組も確認できる。例えば、①園小中一貫教育の推進における小学1年生の授業参観を通じた園小の教員による意見交換の実施や、④GIGAスクール構想

の推進における「スマートスクール構想連絡協議会」の立ち上げと「C B T化によるワークフローゼロの取組」の推進である。

#### イ 評価について

成果に対する評価の主な理由として、「コロナ禍の影響もあり全国学力・学習状況調査における集計結果については、全国平均正答率に及ばなかったものの、学びの基盤プロジェクト実施校では改善している」とある。ただし、コロナ禍以前においても、平均正答率は全国平均を下回っていた。このことに鑑みると、全国平均正答率に及ばなかった理由を「コロナ禍の影響」とすることに疑問がないわけではない。これに加えて、「学びの基盤プロジェクト実施校では改善している」という指摘は、教育実践のあり方次第ではコロナ禍の影響を克服することも可能だということの意味しているともいえよう。単に「コロナ禍」を理由とするのではなく、「コロナ禍」によるどのような影響があったのかを具体的に検討し、これを明らかにする必要があるのではないだろうか。

#### ウ その他

なお、例年、施策の目標として設定された「ICTの活用」に関しては、結果の公表前に点検・評価を行う必要があり、指標としての適切性に疑問がある。

### (2) 健やかな体の育成

「健やかな体の育成」に関しては、主要施策が設定されていないことから、点検・評価が行われていない。ただし、教育振興基本計画では、「はだの元気っ子プランの推進」と「食育の推進」が施策として設定されている。なお、「はだの元気っ子プランの推進」に関しては、「部活動スタートアップ事業の展開」が主な取組として設定されているが、これは基本方針3における主要施策「学校における働き方改革の推進」の主な取組の一つとしても設定されている。

### (3) 個に応じたきめ細やかな支援：インクルーシブ教育の推進

#### ア 取組について

「個に応じたきめ細やかな支援」を施策目標とする「インクルーシブ教育の推進」では、「多様化する子どもたちの教育課題に対応するため、合理的配慮を踏まえたインクルーシブ教育を推進し、個に応じた支援体制の充実を図る」ことを目的に、主な取組として①特別支援学級介助員の派遣、②教育支援助手の派遣、③大学生による学習支援の推進、④通級指導教室の充実、⑤日本語指導協力者の派遣の5つが設定されている。これらの取組については、前回の点検・評価において予定された事業がおおむね実施されているだけでなく、①特別支援学級介助員の派遣（予定よりも2人増）、③大学生による学習支援の推進（前年の2人に対して7人増）、⑤日本語指導協力者の派遣（予定よりも1人増）では、予定を超える人員が派遣されており、支援の充実がうかがえる。ただし、⑤日本語指導協力者の派遣に関する令和5年度の事業予定が令和4年度と比して、1人減の13人となっているため、支援の後退にならないように留意する必要があるだろう。

#### イ 評価について

このような取組の充実にもかかわらず、指標として設定された全国学力・学習状況調査における支援教育に関する集計値は、前年度（38.46%）よりも低い22.73%にとどまっている。取組に対する評価の主な理由には、「個に応じた支援体制を図るために、アセスメントの大切さを研修等で取り扱っているが、不十分である」とある。また、改善の必要性の評価の主な理由として、「支援ニーズの高まり及び支援内容の多様化に対応するために、教員意識をさらに高める必要がある」と述べられている。しかし、改善の必要性の評価の主な理由は令和3年度と同一であり、点検・評価シートに記載された令和5年の事業予定も令和4年の事業内容とほぼ同じである。PDCAという観点を踏まえ、教員意識をさらに高めるための取組の見直しを期待したい。

- (4) 豊かな情操や規範意識、公共の精神を育み、「自分の大切さとともに他の人の大切さを認める」教育の推進：「いじめ・不登校等の対策の推進」

## ア 取組について

「豊かな情操や規範意識、公共の精神を育み、「自分の大切さとともに他の人の大切さを認める」教育の推進」を施策目標とする「いじめ・不登校等の対策の推進」では、「いじめの未然防止を図るため、「いじめ防止基本方針」に従い早期発見、早期の組織的な対応の定着に向けた取組を強化する」ことや、「新たな学びの場を求める児童生徒の将来の社会的自立に向けた支援を行う」ために、①チーム支援体制の推進、②学校内外の相談体制の充実、③いじめを考える児童生徒委員会の推進、④教育支援教室「いずみ」の充実、⑤訪問型個別支援教室「つばさ」の充実の5つが主な取組として設定されている。これらの取組については、前回の点検・評価で示された事業予定はおおむね実施されている。このほか、②学校内外の相談体制の充実に関する取組として、事業予定にはなかった「ヤングケアラーに関するアンケート」（中学3年生対象）の実施と現状把握に取り組んでいることが確認できる。この結果を相談支援の充実に反映させることが今後の課題であろう。

## イ 評価について

取組に対する評価の主たる理由には、「コロナ禍の影響もあり、支援数が目標を達成できていない」とある。「支援数が目標を達成できていない」理由が「コロナ禍の影響」であるならば、同じようにコロナ禍であった令和2年度及び3年度の支援数も目標を達成できていないのだろうか。少なくとも令和3年度の点検・評価では、「コロナ禍の影響」という理由は確認できない。新たな学びプロジェクトの展開でも指摘したように、単に「コロナ禍の影響」を理由とするのではなく、コロナ禍によるどのような影響があるのか、より丁寧な分析が必要だと考える。

## ウ その他

施策の目標として設定された「認知したいじめの改善率」と「不登校児童生徒に対して専門機関等と連携した支援が行われている割合」は、点検・評価をまとめるタイミングでは「公表前」であり、指標としての適切性に疑問がある。

(5) 好奇心や探求心、豊かな感性を育む幼児教育の充実：「いじめ・不登校等の対策の推進」

ア 取組について

「好奇心や探求心、豊かな感性を育む幼児教育の充実」を施策目標とする「一人ひとりを大切にした特色のある幼児教育の推進」では、①幼児教育の質の向上、②個に応じた支援の充実、③公立幼稚園の配置の見直しの3つが主な取組として設定されている。これらの取組については、乳幼児教育保育支援センター機能の創設を除き、前回の点検・評価で予定された事業がおおむね実施された。また、②個に応じた支援の充実では、予定として示されていない医療的ケア児の支援体制の構築に向けて関係機関を交えた検討が開始されている。

イ 評価について

成果や取組に対する評価や改善の必要性は妥当だと考える。なお、園小中一貫教育の取組という観点からも、乳幼児教育保育支援センター機能の創設と充実に向けた取組に期待したい。他方で、公私連携方式によるこども園の実施には不安を抱いている住民もいるようなので、丁寧な説明と不安の解消に努めていただくとともに、これまでと同様の質の高い教育・保育を実施するための取組を期待したい。

2 基本方針2について

秦野市教育振興基本計画では、「基本方針2 地域とともにある学校づくりを推進します」との方針のもと、2つの施策目標と3の施策が設定されている。このうち、今回の点検・評価の対象である令和4年度主要施策は、重要施策としても位置付けられている「学校マネジメントの強化」である。これらの主要施策と施策目標との関係は次の通りである。

施策目標	主要施策
1. 家庭・地域とともに学び、育ちあう学校づくり	学校マネジメントの強化【重点施策】
2. 豊かな地域特性を生かし、郷土を愛する子どもの育成	



(1) 家庭・地域とともに学び、育ちあう学校づくり：学校マネジメントの強化

ア 取組について

「家庭・地域とともに学び、育ちあう学校づくり」を施策目標とする「学校マネジメントの強化」では、「社会に開かれた教育課程」の実現を目指した学習指導要領改訂の趣旨を踏まえ、学校と地域の連携・協働を更に推し進め「地域とともにある学校づくり」を実現するため、学校と地域が一体となった教育活動を展開し、幼児、児童、生徒の豊かな成長につなげる」ことを目的として、①コミュニティ・スクールの推進、②スクールガードリーダーの派遣の2つが主な取組として設定されている。①コミュニティ・スクールの推進に関しては、前回の点検・評価において令和4年度の事業予定として、「新たに北小学校、北中学校、大根中学校を研究推進校とし、学校運営協議会の全市展開に向けた取組を推進する」として、「特に、市民力を生かした寺子屋方式による学習支援が行われている北中学校区、大根中学校区において、重点的に学校と地域が一体となった教育活動を展開し、子ども達の豊かな成長へつなげていく」ことが示されていた。これに対して、今回の点検・評価では「広畑小学校、大根小学校、大根中学校、北小学校、北中学校の5校がコミュニティ・スクール設置校となるとともに、本町小学校、南小学校を研究推進校とし、学校運営協議会の全市展開に向けた取組を推進した」と説明されている。北小学校、北中学校、大根中学校は、予定されていた研究推進校の指定ではなく、学校運営協議会が設置されコミュニティ・スクール化している。このこと自体に問題はないと考えるが、従来は研究推進校としての実践研究を踏まえて、コミュニティ・スクールとして指定されることが多かったことを踏まえると、この点に言及があっても良いのではないだろうか。また、②スクールガードリーダーの派遣が大幅に増加しているが、今後の取組のあり方を検討するためには、これが一時的なものなのか、持続可能性を伴ったものなのか、その理由や要因についての分析が求められよう。

## イ 評価について

指標であるとして設定された「全国学力・学習状況調査の学校質問紙における「コミュニティ・スクールと学校の教育水準の向上の取組の関連性」に関する項目の集計値」は27.3%であり、依然として低い水準である。これについては、成果に対する評価の主な理由に挙げられた「コミュニティ・スクールの設置校数は増加したが、学校の教育水準の向上の取組との関連性が希薄であり、より一体となった活動が求められている」でも確認できる。他方で、取組に対する評価の主な理由では「学校運営協議会に生徒の声を積極的に取り入れて活動に生かす等、地域の特色に応じた子どもの学びを充実させる取組や、コミュニティ・スクールコーディネーター等が学校運営協議会に参加し、学校、地域の意見を取り入れた教育活動を実施することで、教育水準の向上の取組に一定の効果が認められた」と、成果に踏み込んだ記述となっている。前者では「学校の教育水準の向上の取組との関連性が希薄」としつつ、後者で「教育水準の向上の取組に一定の効果が認められた」とあるのは、整合的でないのではないだろうか。なお、改善の必要性の主な理由では「今後の改善事項として子どもの学びの充実に向けた取組が実施されるよう各協議会での成熟が求められる」とある。これと関連して、コミュニティ・スクールを増やすだけでなく、「社会に開かれた教育課程」の実現に対するコミュニティ・スクールの課題に関する検証や学校運営協議会での「熟議」を可能にする施策・取組の充実が必要ではないだろうか。また、学校教育の観点からも、社会教育の観点からも、多くの住民が学校に関わる機会を持つことも期待されていることから、社会教育における地域学校協働活動を推進する必要もあろう。今後は、スクールガードリーダー以外にも、地域学校協働活動として住民が学校教育に関わることを促進する取組の検討・充実を期待したい。

## (2) 豊かな地域特性を生かし、郷土を愛する子どもの育成

「豊かな地域特性を生かし、郷土を愛する子どもの育成」に関しては主要施策が設定されていないことから、点検・評価が行われていない。ただし、教育振興基本計画では、「SDGsの理念

を踏まえた新たな環境教育の展開」と「はだのっ子アワード事業の推進」が設定されている。「SDGsの理念を踏まえた新たな環境教育の展開」については、教育振興基本計画策定の背景である「現在の教育を取り巻く環境」の一つとして「持続可能な開発目標（SDGs）」への言及があることから、主要施策として位置づけ、点検・評価の実施を検討することも考えられるのではないだろうか。また、「はだのっ子アワード事業の推進」は、前述の「社会に開かれた教育課程」とも関連することである。現在、学校と地域の連携・協働が重視されていることに鑑みると、コミュニティ・スクールや地域学校協働活動などの制度的な取組だけでなく、教育実践の成果や取組を点検・評価することも必要ではないだろうか。

### 3 基本方針3について

秦野市教育振興基本計画では、「基本方針3 子どもたちが安心して学ぶことができる学習環境と質の高い教育を支える教育環境を整備します」との方針のもとで、3つの施策目標と10の施策が設定されている。このうち、今回の点検・評価の対象である令和4年度の主要施策は7つの施策である。これらの主要施策と施策目標との関係は次の通りである（なお、「中学校給食の推進」は重点施策として位置づけられている）。

施策目標	主要施策
1. 持続的かつ効果的な学校運営、教育活動態勢づくりの推進	・学校における働き方改革の推進
2. 快適で安全・安心な学習環境の確保	・学校施設長寿命化の推進 ・学校における省エネ対策の推進 ・学校管理下の安全確保の推進
3. 次世代を見据えた教育環境の整備・充実	・学校教育の情報化の推進 ・中学校給食の推進【重点施策】 ・教育施設の一体的整備の推進

(1) 持続的かつ効果的な学校運営、教育活動態勢づくりの推進：学校における働き方改革の推進

ア 取組について

「持続的かつ効果的な学校運営、教育活動態勢づくりの推進」を施策目標とする「学校における働き方改革の推進」では、「教職員の厳しい勤務実態を踏まえ、これまでの働き方を見直し、教育水準の改善・向上のため、自らの授業を磨く」

「自らの人間性や創造性を高め、教職員としての自信と誇りを持って子どもたちに対して効果的な教育活動を行うことができるよう学校における働き方改革を推進し、新しい時代の教育に向けた持続可能な学校指導・運営体制づくりにつなげる」ことを目的として、①学校業務の改善、②部活動スタートアップ事業の展開、③スクールサポートスタッフの効果的な活用が主な取組として設定されている。①学校業務の改善に関しては、前回の点検・評価で予定されていた事業に加えて、学校閉庁日の拡大（1日増加）やオンライン授業を円滑にするための授業配信端末等の整備などに取り組んでいる。②部活動スタートアップ事業の展開では、「東中学校（サッカー部）、南中学校（吹奏楽部）、大根中学校（体操部）、市内中学校剣道部で休日の学校部活動を地域部活動に段階的に移行していく取組を実践研究として取り組んでいるが、他方で予定にあった市内中学校陸上競技部とバレーボール部で実践研究への取組が不明である。③スクールサポートスタッフの効果的な活用に関しては、任用人数が前年度の15人から26人に増加するとともに、県費スクールサポートスタッフも23人から25人増加している。

#### イ 評価について

取組に対する評価の主な理由として「方針に挙げた取組項目は、ほぼ計画通りに進捗している」と述べているが、指標となる教職員ストレスチェック指数は98であり、前年度の数値（91）よりも悪化している。そのため、取組については「ほぼ計画通りの進捗」であるにもかかわらず、これが成果につながっていないようにも見受けられる。この点に鑑みると、改善の必要性における評価が「B当面必要なし」であることは疑問である。取組が成果につながっていないのだとしたら、阻害要因や新たな取組の検討が必要ではないだろうか。他方で、目標の設定値が高いことも考えられることから、これについても再検討の余地があるのではないだろうか。

(2) 快適で安全・安心な学習環境の確保：学校施設長寿命化の推進・学校における省エネ対策の推進・学校管理下の安全確保の推進

「快適で安全・安心な学習環境の確保」を目標とする主要施策である「学校施設長寿命化の推進」、「学校における省エネ対策の推進」、「学校管理下の安全確保の推進」は、教育環境や教育条件の整備に関する施策である。このうち、「学校施設長寿命化の推進」は「学校施設の長寿命化を計画的に進めることにより、快適で安全・安心な学習環境を確保する」ことを目的とした施策であり、学校施設の改修を主な取組としている。また、「学校における省エネ対策の推進」は、「児童生徒の安全・安心と省エネルギー化による環境への配慮の両面から、教育環境の整備を図る」ためのLED照明の導入が主な取組として設定されている。さらに、「学校管理下の安全確保の推進」では、「児童生徒の登下校時の安全を確保するため、学校から整備・改善要望を受けた通学路の危険箇所等について、学校、保護者、教育委員会、関係課及び秦野警察署が合同点検を実施し、必要性や優先順位等を見極めながら安全対策を更に強化する」ことや「安全で安心な給食を提供するため、施設及び設備の適正な維持管理と計画的な改修・更新を進める」ことを目的とし、前者については①通学路の安全確保、後者については②小学校給食調理設備等の計画的な改修が主な取組として設定されている。

前回の点検・評価でこれらの取組として予定されていた事業は全て実施されている。特に、学校における省エネ対策の推進は当初の3カ年の計画に対し、単年度で実現したことは特筆すべきであろう。今後も、補助金等も活用し、計画的な実現を期待したい。なお、評価については、いずれも妥当な評価と考える。

(3) 次世代を見据えた教育環境の整備・充実

「次世代を見据えた教育環境の整備・充実」を目標とする主要施策である「学校教育の情報化の推進」、「中学校給食の推進」、「教育施設の一体的整備の推進」は、(2)の「快適で安全・安心な学習環境の確保」を目標とする主要施策である「学校施設長寿命化の推進」、「学校における省エネ対策の推進」、「学校管理下の安全確保の推進」に対して、今後の教育活動の充実に向けた「攻

め」の環境・条件の整備といえよう。なお、「中学校給食の推進」は重点施策の一つとして位置づいている。

#### ア 学校教育の情報化の推進

「次代を拓く子どもたちに公正で最適な学びを提供するため、ICT環境を整備し、「学校教育の情報化」を推進する」ことを目的とした「学校教育の情報化の推進」に関しては、GIGAスクール構想の環境整備が主な取組として設定され、児童生徒の使用する学習用端末に関する事業と教職員が使用する校務用システムやパソコン等に関する事業の2つが設定されている。これらについては、予定の事業が実施され、評価についても妥当であると考えられる。

#### イ 中学校給食の推進（学校給食の推進）

「未来を担う子どもたちの心身の健全な育成に資するため、全ての中学校で、安全・安心でおいしい生徒が喜ぶ中学校給食を提供する」ことを目的とした「中学校給食の推進」では、中学校給食の完全実施を受けて、主な取組が小学校を含む「学校給食の推進」へと変化している。これは、PDCAサイクルを踏まえた適切な変更だと考える。また、前回の点検・評価で予定された事業内容が実施されるとともに、予定には示されていない中学校給食に対する意見聴取のための「PTA試食会」が開催されている。成果に関していえば、指標である「学校給食食材における秦野産野菜の使用割合」は前回よりも低下している。ただし、これは小学校給食を含むこととしたためであり、前回の指標であった中学校給食に限れば2ポイント上昇している。今後は、小学校給食における秦野産野菜の使用が課題となる。

#### ウ 教育施設の一体的整備の推進

「児童・生徒数の減少と施設の老朽化が進む中、学校施設が隣接する立地条件とこれまでの幼小中一貫教育の成果を踏まえ、教育施設の一体的整備を推進することで、教育環境の充実に図る」ことを目的とした「教育施設の一体的整備の推進」では、主な取組として「学校施設の一体的整備に係る整備手法等の検討」と「新たな学びを支える学校施設等のあり方に関する調査研究」が設定されている。前回の点検・評価で予定された取組が実施されるとともに、予定として示されなかった「これ

からの学校のあり方の検討に向けて、学校運営協議会（コミュニティ・スクール）へ「施設の老朽化」「新たな学び」「児童・生徒数の減少」等の現状に対する情報提供」が行なわれている。

成果に関する評価は「C 目標値をおおむね(70%)達成」とされているが、他方で、取組に対する評価は「B 充実していた」である。令和4年度の目標値は設定されていないことや予定されていた「新たな学びのスタイルに対応した学校施設のあり方<基本スタイル>」が取りまとめられたことを踏まえると、成果が「C 目標値をおおむね(70%)達成」であることやその主な理由が合理的でないように思われる。

おわりに

点検・評価は、教育の質を保証するために行なわれるものである。したがって、施策や取組、計画等は、点検・評価の結果を踏まえて見直すことによって、より充実した教育条件の整備や教育実践が展開されることが期待されている。

今回の点検・評価では、予定された事業はおおむね実施され、その成果も目標をおおむね達成できていることが確認できた。また、予定された事業を超えて、新たな事業に取り組んでいることも確認できた。予定されたことを実施するだけでなく、必要に応じて柔軟な対応がなされていたことは、評価すべき点と考えている。他方で、成果と主な取組との関連が明確でないものや、成果や取組に対する評価や改善の必要性に関する主な理由が整合的・合理的でないものも散見された。そのほか、施策の目標の達成状況を判断するための指標のなかには、点検・評価の際に公表されていないものが設定されているものもある。

P D C A サイクルにおいて、点検・評価はC（チェック）に該当するとともに、点検・評価後にはこれを踏まえたA（アクション）が期待されている。今回の点検・評価を踏まえて、効果や成果が確認できた取組等についてはさらなる充実を図るとともに、改善すべき点は取組等の見直しや再設定を行ない、充実した質の高い学校教育が展開されることを期待したい。

なお、主要施策が設定されていない施策目標が確認されたが、主要施策は教育委員会において決定されている。教育委員会の議事録は公



開されているが、議事録には設定理由が明確に示されているわけではない。主要施策は点検・評価の対象であり、点検・評価の重要な要素であることから、今後は設定理由や設定のプロセスについて報告書への記載を求めたい。

「教育委員会の点検・評価の生涯学習関係に対する総合的な評価」

東海大学 名誉教授

逢坂 伸一

はじめに

長引く新型コロナウイルス感染症の不安があるにも関わらず、市民の教育環境整備のための教育委員会目標の達成に向けて、順調に取り組まれていることに感謝したいと思います。

今回は、「秦野市教育振興基本計画(令和3年～7年)に基づいた「教育委員会令和4年度基本方針」のうち、生涯にわたり学び続けることが出来る環境づくり(基本方針の4)、歴史資源の保存・活用(基本方針の5)の具体的事業の進捗状況、さらに、地域とともにある学校づくり(基本方針の2)に対して、生涯学習・社会教育の分野がどのような支援をしているかについてなどを検証させていただきます。

1 生涯にわたる学びのために(魅力ある地域学習)

(1) 公民館等の社会教育施設の事業について(重点施策13、14)

施設の評価を検討する場合、運用経費なども修理、改修などのハード面が必要数値等を明確に提示することが出来ることから要求しやすく、逆に、活動面での経費予測が困難なことから、ソフト面、すなわち社会教育活動を提案し難い傾向にある中、重点施策13のように、公民館事業の重要性を示し、いくつかの取組を提案されていることは高く評価したい。特に、戦後の公民館発足以来の公民館事業の役割とされてきた3点を具体的な内容として示されていることに、本市の社会教育支援の真摯な態度を高く評価したい。すなわち、公民館事業は、市民の要求する事業の実施(主な取組中の①市民提案型事業の充実)、市民のために必要とする教育委員会等の自主事業(②公民館協働事業の充実)、そして、地域住民の学習のための核であること(③地域協働事業の充実)がそのまま提案されており、このことについては、新たな生涯学習推進計画などの重点施策としても継続されることが望まれる。

「はだの生涯学習講座」については、テーマや講師陣などの選択が市民のニーズにも合致しているとの参加者の意見もあり、継続が期待される事業である。今後は、企画の段階から、市民の参画なども取り入れ、ゆくゆくは「市民大学」(図書館担当)も含め

て、行政・市民協働企画事業としての位置付けも考えられるのではなかろうか。

その際、木崎湖畔で毎年実施されている「木崎夏季大学」(大正6年に開講し、昨年のコロナ禍での休講以外は一度も休むことなく、我が国初の市民大学と言われている)も参考になるかもしれない。

報徳仕法啓発事業は、平成25年の全国報徳サミット秦野市大会以来、社会教育委員も毎年参加しており、各地域のまちづくりの様子を知ることができ、社会教育活動のために有効な事業と考えられ、今後も、教育委員、社会教育委員等は率先して参加することが期待される。

## (2) 図書館の未来(重点施策14、15)

夕暮祭短歌大会、夕暮記念子ども短歌大会等は、微増ながら参加者数も増加していることは望ましいことであり、今後も多くの市民、あるいは市外の人たちの知名度拡大のための工夫を期待したい。特に、子ども短歌大会については、教育委員会の協力を得て、本市独自の学校カリキュラムの一つとしての工夫も検討すべきであろう。

## (3) 社会教育施設の未来の姿(重点施策17、18)

都市化とともに市民にとっての公民館の位置付けがあいまいとなり、公共施設再配置計画の検討に於いても、縮減、あるいは他の公共施設との合体などが検討されているが、東日本大震災直後の公民館設置に見られるように、地域の人々の学びの拠点としての公民館のあり方の再検討は重要な課題と思われる。耐用年数が間近になる今、急ぎ検討し、市民のための学習拠点としての公民館、図書館の未来の姿を市民とともに描くことも期待される。

## 2 子どもの学習活動の推進について(図書館など)

### (1) 子どもの読書活動(重点施策16)

子どもたちの読書時間減少問題は喫緊の課題でありながら、抜本的解決策は見出せていないことはさびしい限りである。ただし、本市の図書館が行なっているブックスタート事業は一つの光明であろうと思い、数年来、その効果を注目し、期待もしてい

る。ブックスタート事業に関わった乳幼児や家族のその後の図書館活用の実態調査などを検討してみてもいいだろうか。なお、児童生徒の読書評価とは、読書量ばかりではなく、読書内容がその後の人生上のどこでどのように活かされたのかについての確認が必要であるが、それは、関係者にとっての永遠の課題なのかもしれない。かつて、スウェーデンの友人宅のクリスマスの際に、4、5歳の女の子が、ツリーの周りに置いてあるプレゼントを紹介してくれた。

人形などの女の子らしいプレゼントとともに、いく冊かの絵本も飾られていたが、その中の古びた絵本について、“この絵本は、ひいおばあちゃんがおばあちゃんにプレゼントし、おばあちゃんがお母さんに、そしてお母さんが私にプレゼントしてくれたもの”、と嬉しそうに語ってくれた光景を思い出した。新作とともに、図書館に眠る古びた書物の公開もまた、新たな読書意欲を引き出すのではなかろうか。今年度の広域中学生洋上体験では、船上フェスティバルの講評として、絵本の読み聞かせを行い、私も読書離れの歯止め役のお手伝いをしてみようと思っている。

## (2) 市民の知る権利のための核としての市立図書館

図書館資料の充実、レファレンスサービスの充実、障害者、高齢者へのサービスの充実を取組内容として、電子図書館の周知、利用促進を図ることを今年度の達成目標としていたが、必ずしも十分ではなかったことがうかがえる。出前講座のように、各公民館などでの積極的な説明会などが役立つのではなかろうか。

図書購入費と購入図書数との開きは、物価上昇などの社会的現象とも言えるが、毎年の図書購入費が人口比に照らして十分であるか否かについての検証も、知る権利の保証を基本的目標とする市立図書館としての責務かもしれない。また、かつてのバスによる移動図書館は無理としても、公民館図書室の新たな意味合いでの活用、あるいは、テーマ別民間協働図書館構想、また、学校図書館との積極的な交流事業も考えられないだろうか。

## 3 文化財・歴史資源の活動の推進(はだの歴史博物館の未来)

### (1) 歴史資源等の保存・管理(重点事項19)

資源を発掘、展示することは、市民が祖先の生活様式等を目の当たりにし、自らの生活を見直すなどの効果が期待されるなどの大きな役割を担っているが、発掘、寄贈などで得た資源の保管場所が定まらないのであれば、いわゆる宝の持ち腐れに陥ってしまうかもしれない。保管場所の確保は担当部署にとっての大切な役割であり、発掘、発見以前になすべきことと思われる。デジタル化についても、予算、期間などを事前にしっかりと検討すべきであり、したがって、安易な資源確保にこだわらず、慎重な対応が望まれる。

## (2) はだの歴史博物館の姿(重点事項 20)

「はだの歴史博物館」と改称する以前の「桜土手古墳資料館」であった頃の施設の設置目的は、発掘、資料保管、研究調査、公開であったと思われるが、現在の歴史博物館では、桜土手古墳の紹介ばかりでなく、広く地域の歴史についてを、広く一般公衆に提供することが義務付けられている。(博物館法第二条)

すなわち、従来は主として秦野市民の利用に供することであったのが、歴史博物館としての登録後は、内外を問わず、多くの人々の訪れる施設であることを再認識したい。ヨーロッパ等の各国国境付近であれば、辺境博物館が置かれており、地域の歴史的資料などを自国以外の訪問者に公開し、ある意味では、自国や自分の村の良さを宣伝することを目的としている。

はだの歴史博物館も、ぜひ秦野市がいかに住み良い地域であるかを納得してもらおう役割を担って欲しい。そのためには、図書館、公民館、学校等との交流を密にし、多くの市民に慕われる努力をしていただきたい。

## 4 学校教育との連携について(社会教育からの支援)

### (1) 学校教育への支援体制(重点事項 3)

「いじめを考える児童生徒委員会」の継続は、児童、生徒自身の自覚のためにも大切な事業であるが、その具体的な改善工夫の効果がよりわかりやすく示される方法などがあれば、さらに高い評価を得ることが出来ると思う。そのためには、教育委員会のみでなく、広く市民を交えたいじめ対策のための勉強会(ワークシ

ヨップ、セミナーなども)や検討会議などの設置も考えられよう。

個人的見解だが、文部科学省、あるいは教育委員会等でも、いじめの定義、考え方の一つとして、“いじめはどこにでもある”という部分が気になって仕方がない。すなわち、あってはならないはずなのに、どこにでも、あるいは誰でもが、という文面を当然の如くに解釈していることが、撲滅の力を削いでいるように思えてならない。自己評価、検討会議、あるいは教育委員会のいずれの評点もCランクであることをAランクに変更するためにはどのような方法が必要であるのかについての検討を社会教育関係者、市民を交えて行ってはいかがであろうか。

おわりに

「秦野市新総合計画前期基本計画(令和3年～7年)」、「第4次生涯学習推進計画」等を参照しながら令和4年度、5年度の本市の生涯学習・社会教育分野の事業実施状況を読み取らせていただきました。20項目の重点事項中の8項目にもわたる関係事項のあることに、生涯学習・社会教育分野の広範囲であることを改めて確認した次第です。これらの重点事項を核とする市民全体の学習環境づくり支援を生涯学習課、図書館などが担当していること、そして、教育委員会が補助執行業務として関わっていることでどのような効果をもたらしているかについての具体的な評価も知りたいと思いました。今回の各項目についての点検評価会議や教育委員会等のコメントでは、教育という観点からの明確な助言などがあまり見当たらないことが、やや気になりました。

施設の老朽化等への不安が見受けられますが、このことは重点事項であるなしに関わらず、早急に点検、検討し、生涯学習課並びに教育委員会としての将来のあるべき姿を明確にすることが望まれます。さらに地域に開かれた学校のための地域学校支援本部事業についても、生涯学習課等の意見を踏まえることによって、より効果的なコミュニティ・スクールの実現をもたらすものと思います。





## おわりに

秦野市教育委員会による令和5年度の「教育行政点検・評価報告書」を提出いたします。

この点検・評価は、教育行政の効果的な推進と市民への説明責任を果たすことを目的に、関係各課等における事務の管理・執行状況について、「教育委員会の活動状況」及び「基本方針に基づく主要施策」の2つの視点から実施しました。

また、点検・評価の対象となる主要施策は、令和3年度を実行初年度とする秦野市教育振興基本計画の進捗状況を経年で管理していくため、昨年度と同様の20施策とし、学校教育や生涯学習の関係者で組織する「教育施策点検・評価会議」における、第三者的な視点からの点検・評価、御意見をいただくとともに、学識経験者の総合評価を活用しながら教育長・教育委員による点検・評価を行いました。

今回の総合評価では、事業予定に対する進捗状況及びその取組内容と成果に対する評価並びに改善の必要性についての整合といった観点からの評価が行われており、改めて、PDCAサイクルに基づく、点検・評価の重要性を認識する機会となりました。今回のチェックを踏まえ、次のアクションをどのように展開していくか、各課の工夫・改善により、引き続き、各施策の目標達成に向けて着実に事業を推進してまいります。

コロナ禍も経た中で、学校は「教える」から「学ぶ」への転換期を迎え、子どもたちの学びのスタイルが大きく変わろうとしています。

このような流れの中で、教育委員会の役割と使命を自覚し、複雑・多様化する教育課題に対しては、様々な立場の方からの意見を聴きながら最適値と納得解が導き出せるよう、学校教育と社会教育のより一層の連携・協働により、本市の教育の充実・向上に努めてまいります。

最後に、学識経験者として総合的な評価をいただきました東海大学ティーチングクオリフィケーションセンターの大島宏教授、東海大学の逢坂伸一名誉教授に厚く御礼申し上げます。

併せて、御協力いただきました教育施策点検・評価会議の委員の皆様、心より感謝申し上げます。



---

令和5年度 教育委員会教育行政点検・評価報告書

令和5年9月発行

編集・発行 秦野市教育委員会

秦野市桜町1-3-2

電話 0463-84-2783

<https://www.city.hadano.kanagawa.jp/>

---